

いろいろといろ  
なな



なほ

## この本は

---

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO7です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

三冊目 <http://p.booklog.jp/book/49689>

四冊目 <http://p.booklog.jp/book/51371>

五冊目 <http://p.booklog.jp/book/52955>

六冊目 <http://p.booklog.jp/book/54454>

## 流星号

---

目を凝らし「願い」を回収する。

船の名は流星号。俺の相棒だ。

こいつの腹に願いを収め、馴染みの工場へと運びこむ。

煙草を数本ふかして待てば、

パートのおばちゃん達が利害の一致した願い同士を娶せ、磨きあげてくれる。

あとは俺が届ければ終いだ。

仕事あがりのバーボンが染みる。

[#twnovel](#)

**8月32日**

---

8月31日の翌日は9月1日と誰もが信じていた。

けれど予想を裏切りやってきたのは8月32日。

「宿題が終わらない子を持つ親の気持ちも考えて」

寄り添った結果である。

けれど1年365日。暦の辻褄は合わせたい。

現在、消えて欲しい日1位の12月24日の消滅が検討されている。

[#twnovel](#)

檻

---

檻の中からあなた達をみてる。

「絶滅危惧種か」「賢そうなのにね」「繁殖が難しいらしい」

あなた達と僕が同じに見えるのは、視力が足りないから？それとも、知能が足りないから？

「なんて動物かしら」「人間」「少し私達に似ているね」

檻の中と外。

それ以外の違いを僕は知りたい。

[#twnovel](#)

大量の手紙が届いた。

「謝罪しろ」国に対する怒りが記されているらしい。

警察に相談しても悪戯でしょうと受け流された。

[#twnovel](#)

「これでしばらく食い止められます」「生贄を差し出すのが一番だ」

かの国で僕の住所が「どしどしお便りお寄せ下さい」とTVで紹介されている事を僕は知らない。

## 高めの男

---

絶対に落とすわ。

いくら高めの男だからって私にかかればイチコロよ。

熱い視線を貴方に飛ばして尖らせた爪は戦闘態勢。

さあはやく。私に落ちていらっしやい。

貴方を骨まで愛するわ。

[#twnovel](#)

「何してんの？」

しきりに猫パンチを繰り返すタマの頭上。

天高く、翺雲。

[#twCATnovel](#)

奥様は

---

同僚宅にお邪魔する。

出迎えた彼の妻について僕ら居間へ向かう。

食卓には一人分の食事。

「すみません突然来て」

にこやかな奥さん。

「あ、これ自動奥さん」

噂には聞いていたけれど。

「いつも通りの生活なら人間奥さんと大差ないんだけどね」

ソファに座り奥さんはフワーっと欠伸をした。

[#twnovel](#)

## ヤモリ

---

家の中でヤモリを見かけたがその後見ない。  
見えない所で蜘蛛やいけない何かを食べて家を守っているのかも。  
僕はヤモリと同居する。

[#twnovel](#)

家を守るのも大変だ。  
喰うべきものが多すぎて難儀したがこれが最後。  
ベットで眠るこの大きいの。  
これを食べればいけない何かは全滅だ。  
いただきます。

## ハーモニー

---

歌う機械が螺子をひとつ、壊れた機械に差し出した。

歌う機械は壊れて止まり壊れた機械が歌い出す。

動けぬ日々を動けぬ僕を慰めたのは君の歌。

ねえ歌ってよ。

歌う機械が螺子をひとつ、壊れた機械に差し出した。

[#twnovel](#)

交互に歌い壊れる機械が夢に見るのはハーモニー。

叶うのはまた別のお話。

遅い夏休みをとって海へ。

頑張った私に潮風は優しい。私は夏を振り返る。

例年通り短く激しい夏の恋。

それがいいって人もいるけど私そろそろ変わらなきゃ。

不器用なんて言ってらんない。

来年までには赤い糸の完璧な結び方、マスターするわ。

決意する夏。

見守る秋は、例年通りと笑った。

[#twnovel](#)

## 片方の靴下

---

片方だけの靴下には心が芽生える。  
寂しさに後押され、相方求めて旅をする。  
ふらりふらり。  
僕は世界に慰められる。美しすぎるこの世界。  
目的終われば僕は心を失くすだろう。  
この感動も。  
だけど、いやだけど。

[#twnovel](#)

相方と再会した。  
君も同じ気持ちだね。  
どうか元気でと笑ってすれ違う僕達。

## 迷子の子猫

---

一人歩きの子猫がみんな、迷子だなんて失礼にゃ。

あなたのおうちはどこですか？

さてはお前はストーカー？失礼なヤツめ我家はここにゃ。

[#twnovel](#)

知らない子猫を避けながら扉を開けたら中へ入ってきた、と思ったら走って外へ一目散に逃げだした。

間違ったの？犬のお巡りさんに会えるといいね。

## 火消し屋

---

火をつけるのは簡単よ。みんな望んでつけるから。  
だけど消すのは難しい。消したい人などいないでしょ。  
火消し屋の君は、僕の恋の炎をふっと一息で吹き消した。  
はいオシマイ。次の恋は自分で消せるといいわね。

[#twnovel](#)

消さずにすむ恋をするよと答えた。  
できれば君にとって続きは胸にしまって。

## 抗議

---

死のう。

なんにもない僕だけれど、これは未来のない社会への抗議の死だ。

そこは勘違いされたくない。

マスコミ対策で僕は身辺整理を始めた。

[#twnovel](#)

漫画ゲームは捨てる。二次元嫁もゴメン。

ニート生活問題になりそう。働く。ぼっち克服。

結婚して子供2人。幸せな家庭。

僕は天寿を全うした。

## スーパーおばちゃん

---

スーパーおばちゃんはスーパーマンの仲間じゃない。

スーパーに挑戦するおばちゃんだ。

印象に残らぬよう密かに買い物をする。

一番の大仕事はレジ通過だ。

カゴの中身で今夜の献立を推測されてはスーパーおばちゃんの名折れ。

貴方の前に並ぶその人が実はスーパーおばちゃんかもしれない。

[#twnovel](#)

## ハーモニー（連作）

---

歌う機械は、二体でひとつの螺子を使う。

一体動けば一体止まり、交わらないメロディー、生まれないハーモニー。

今日もまた、片方だけが動き出す。

けれど。

ある日、掌に記された文字。

「キミトウタイタイ」

書いたのは君？

動かないもう一体に、歌う機械は歌を捧げる。

#twonovel 歌①

僕の掌に残された手紙。

「ボクモキミトウタイタイ」

掌を胸に、考える。考える。

情報を組み合わせて、完璧な解を。

僕ら二体、足りない螺子はひとつだけ。

けれどもそれは無二の螺子。

なければとても動けない。

ハーモニー。君と一緒に。

僕は、僕の解を、君の掌に書いた。

#twonovel 歌②

掌の解。

共有螺子をのぞいては、まるで同じの僕らだから、

解は僕にも妥当であった。

君が可ならば僕も可だ。

僕は君の部品を、僕の部品を、正しい順序でそっと外す。

壊れていく僕ら。

少しずつ少しずつ。

100%の成功などないことを知る僕らの、それは世界への小さな反逆。

[#twonovel](#) 歌③

壊れ続ける僕らと増え続ける掌の手紙。

僕らお互い励まし合って、そしてお互い壊し合う。

ああもうそろそろ頃合いだ。

僕は歌を歌う。君に届くかな。

僕は歌を歌う。きっと届くはず。  
僕ら二体への鎮魂歌を。そして。  
僕らの未来を、はじめようか。  
#twnovel 歌④

組み立てる。  
僕らを。僕らの未来を。  
掌の手紙、励まし合って。  
眠る君に、歌を歌う。  
大丈夫。大丈夫だよ。  
もうすぐ僕ら、生まれ変わる。  
新しい世界。新しい僕ら。  
歌を歌って、その時を待つ。  
#twnovel 歌⑤

僕ら共通の無二の螺子を、  
僕達の新しい、大切な場所にそっとはめる。  
「ハローハロー」  
はじまりの歌を歌う僕。  
そして、  
「ハローハロー」  
はじまりの歌を歌う君。  
僕のメロディー君のメロディー。  
妙なる僕らのハーモニー。  
歌う僕らは顔も合わせられないけれど、  
だけど、幸せ。  
#twnovel 歌⑥

「「キミトウタイタイ」」  
僕らのたったひとつの願い。  
叶って僕ら共に歌う。  
二系統の歌回路をもつ、僕らの体はひとつきり。  
足りない螺子を共有するため、僕ら一体の機械になった。  
向かい合えない僕らだけれど、そんなの何が問題だろう。  
だって、  
「「ボクハキミトウタッテル」」

[#twnovel](#) 歌⑦

「ねえママ、お歌がきこえる」

世界に響くハーモニー。

「機械の歌よ」

「機械の？」

「そう、夢を叶えた機械のお歌」

「綺麗。私も歌いたい」

「それじゃあママが教えてあげる」

その歌はそうして、世界を巡り、やがては時をかける。

[#twnovel](#) 歌⑧【完】

## 閻魔様の見解

---

呼吸も心臓も止まった。医師が瞳孔を確認する。

「ご臨終です」

僕の死が確定したようだがちょっと待て。

死んでない。いや死んだのか？初体験で解らない。

次々とられていく死の手続き。

待て。火葬はいやーっ。

[#twnovel](#)

「何故日本は焼死が多いのだ？」

「閻魔様、きっと木と紙の文化だからです」

## 女郎蜘蛛

---

女郎蜘蛛は言葉を紡ぐ。

お慕いしていんす。

紡いだ愛の言葉の糸で大きな大きな巣をかけた。

振り向いてくんなましできれば愛してくんなまし。

愛しい人を捕らえた糸は千切れてその巣は壊される。

届かぬはわっちの糸が醜いから。

愛の言葉で紡いだ糸は、朝露に濡れてきらきらひかる。

[#twnovel](#)

## 二番目

---

「使命をやろう」落ち込む僕に親方が言う。  
一番になれない僕への哀れみか。あいつの引き立て役でしかない。  
黙る僕に親方は続けた。

「人の夢を叶える仕事だ」

[#twnovel](#)

一番大きな花火の隣で静かに咲くと、僕は身に抱いた流星を宙へと放つ。  
またおいで、帰れるから。人の願いを叶えにおいで。

## 発掘隊

---

発掘隊が手にした塊は、僕にはただの石ころに見えた。

けれど。

「これは凄いぞ高く売れる」

誇らしげな顔。

そんな価値ある物が僕の中で見つかるなんて。

心発掘隊初の快挙に僕ら祝杯をあげた。

[#twnovel](#)

「納得いかん」思ったほど値がつかず、憤慨する発掘隊。

有難う。君達の本気が、僕は嬉しい。

## 賭け

---

最近別れ話ばかりでうんざりしてたら「賭けをしよう」と彼女が言った。

「先に恋人を作ったほうが勝ち」らしい。

「あなたが勝ったら別れ話はもうしない。でも私が勝ったら別れて」って。  
それってさ。

ごめん、そこまでズルくてアホなこと考えさせて言わせてごめん。

僕は彼女を開放する。

[#twnovel](#)

## シャボン玉の行方

---

割れずに残ったシャボン玉は空の高い所へ昇る。

密やかに待ち合わせ次々つながりやがて1つの球体となる。

大きく歪んで風に耐えてはある日突然、パチン。

[#twnovel](#)

雨が降る。陽がさす。そして、空に虹。

かつて自分が飛ばしたシャボン玉の成れの果てとも知らず、子供らは、  
虹を見上げて笑う。

## 護り手

---

ようこそ、ほこり高き我が一族よ。

長老は辿りついた者達を労った。

この世界を滅びへ誘う者、彼らに与するを拒み、彼らの炎獄からも逃れ、ここに集う仲間達よ。

今までの不当な扱いは忘れなさい。我ら革命を起こすのです。

美しい世界を護る為に。

[#twnovel](#)

真夜中の夢の島。護美達は未来を憂う。

## 努力の木

---

「皆様が実らせた努力はこの木に実を結びます」  
ガイドが示す窓の外には色とりどりの実をつけた大きな木。  
「この木は当社で厳重に管理し、あ」  
カーテンで突然視界が遮られる。  
「終了の、お時間のようですね」

[#twnovel](#)

さっきちらっと見えたんだけど、  
誰かが木の実、もいで食べていなかった？

## 謎解き

---

休み明けの教室に君がいない。  
急な引っ越しだと担任が言った。  
休み前、君に借りたこの推理小説どうしよう。  
パラパラ捲る、と葉が落ちた。

### [#twnovel](#)

葉にかかっているのは地図と君の名前。  
地図はここから電車で1時間の街。  
ねえ、これは僕が読むと知ってのことなの？  
謎を解きたくて、僕は走る。

## 思い出の牢獄

---

カツンカツン。靴音を響かせ見廻る。

初めは空き牢ばかりだったのにいつの間にか囚人で溢れている。

「俺は無実だ」「いっそ殺せ」

幼い神が生きるために閉じ込めた無実の思い出達を、看守は見つめた。

[#twnovel](#)

今日は何だか嫌なことばかり思い出す。

胸に手を当てるとカツンカツンと靴音が響く。

空から糸電話の片方が落ちてきた。不思議に思いどンドン手繰る。  
どンドンどンドン。

[#twnovel](#)

どんっ。

落ちてきたのは羊と少女。糸電話は羊の毛へと繋がっていた。

少女は羊を撫でる。羊は空へと消える。

そして「もしもし今から帰るね」どこかへ糸電話をかけて、少女も空へと消えた。

## 死神の本

---

人生が並ぶ図書館で本を選び、やがて張り付き魂を頂く。

けれど最近借りていく死神は減った。

新刊の少なさそして何より命を諦める人間の対応に追われ好みの本を読む暇がないのだ。

今日も課題図書があったな。

たまには美しい物語でも読みたいのだけれど。

呟いて死神は選んだ本を戻す。

[#twnovel](#)

## スパイ大作戦

---

俺はスパイだ。

この目のカメラは依頼主と繋がる。

そのために改造された肉体。

異質な俺を愛したお前に誘われるまま快樂に身を投げても、卵を残すことはできな...できた。

俺、機械じゃないの？

そう言えばあの日ぐるぐるされてから俺は。

[#twnovel](#)

トンボの目ってカメラみたいよね、ぐるぐる。

## 目覚め

---

王子様のキスで私は百年の眠りから目覚める。

この年月で人類は大きく進化したのね。

まじまじと見つめる。冷たい唇、感情のない瞳。

ねえ、貴方は私を愛するかしら？

#twnvday

アイってナンだ。

姫を目覚めさせるためキスし続けるだけの簡単な実験を任されてた。

機械の僕はアイを知らない。

揺れる電車、僕の肩にもたれかかって眠るまだ友達の君。

柔らかな髪がくすぐったい。

君の体温を感じながら、君の目が覚めぬようこの時間が終わらぬよう、祈る。

祈る？まさか、僕は。

[#twnvday](#)

「よく寝たあ」「おはよ」「俺いい夢見てたわ」

君は目を覚ました。

そして僕も何かに目覚めた、かも。

「うおおっ」「どうした」

「お、俺の中の、あ悪が目覚める」「しっかりしろ」

「お、抑え切れない」「何かできることは」

「悪は、悪は、お前のキスで100年の眠りから覚めるっ」

「」「」

「しなきゃいいんじゃない」

「」「」

「お前のキスで100年の眠りにつくっ」

「・・・」「///」

[#twnvday](#)

目覚めろと、何か言った。[#twnvday](#)

僕を心配する信号に目を覚ます。

イトカワへのお使いは大変で何だか疲れちゃって。

こっちみる？写真？ああ青い。

アレハチキュウ。

帰ってきた。

ねえ僕、頑張れたかな？

沢山誉めて貰えるかな？

カシャカシャ。

僕はそっと、目を閉じた。 [#twnvday](#)

「目」の検査、これ以上悪くなるとメガネの範囲に突入だ。

「覚」えるしかないよねっていうのはそう、視力検査表のこと。

「め」んどうだけど頑張ると、えーと、

右右左下上A A Bで必殺技炸裂俺大勝利で視力2.0獲得キタコレ（きません）！

[#twnvday](#)

「目」から鱗が落ちる季節が今年もまたやってきた。

「覚」悟していることなのだけれど、目のまわりに纏わりつく鱗がちくちくと鬱陶しい、だけどね。

「め」ずらしいし綺麗だし僕は好きだよってあなたが言うから、辛い呪いも素敵な魔法に思えるの。

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

こえる

---

飛行機は北へ。

海峡をこえれば故郷だ。

見慣れた教会を風見鶏の鳴き声が届くかの距離に眺める。

「結婚します」

届いた招待状。

今日ここで元彼と親友が結ばれる。

出席なんかできないのに、気になって帰郷してしまった。

そっと目を閉じる。

お幸せに。

私は貴方を今、こえる。

[#twnovel](#)

## 砂の城

---

砂浜に城を作ったら、お姫様が住みついた。

苦しゅうない。スイーツを持って参れ。

飴玉を1つ渡したら多層お気に召した様子。

恥じらいながらもご褒美にくれた口づけは、ジャリジャリ甘いイチゴ味。

やがて満潮で、城もお姫様も波に消えた。

僕はもう一度、今度は少し陸側に城を作る。

[#twnovel](#)

眠れぬ森の美女は眠れない。

もうすぐ百年、ようやく呪いの日々が終わる。

蠢く茨が道を開けた。

王子様の予感に胸は高鳴る。

[#twnovel](#)

「魔王だな！」

つきつけられた剣。

「醜い心の闇そのままの姿だ」

私は醜い。魔王のように。そう、ならばそれでもいいわ。

「お前を許さない」

私はまだ眠れない。

## ヤドカリ

---

世界は最早終いのようね。

女神は浜辺を歩くヤドカリをひょいと捕まえた。

そうねお前に致しましょう。

取るに足らない生き物ならば生き残るチャンスもあるでしょう。

ヤドカリの殻に女神は希望を吹き込んだ。

これで希望は守られる。

[#twnovel](#)

何か重い。ヤドカリは家ごと希望を脱ぎ捨てた。

## 地図

---

新しい地図をダウンロードしたら、地図情報がスカスカだった。

なんだこの劣化は。あるべきものが記されていないばかりか間違っただ情報が記されている。

使えねーな。僕は地図を削除した。

[#twnovel](#)

最新を名乗るには未来も追わなければ難しい時代なのです。

10年後、色々あって世界は地図通り。

## リプ

---

「私もそこに泊ってます！会いませんか？」  
可愛い実写アイコンの子からリプライ。  
彼女温泉に行っちゃって暇だし、ふつつつと興味が。  
「それじゃ写真のところで」  
会うくらい罪にならないよね。

### [#twnovel](#)

「どこ？」約束の場所でリプライ。  
「後ろ」振り向くと  
「かかったわね」  
仁王立ちの彼女。

## 肝試し

---

夏の終わりの肝試し。薄ら寒いのは秋風のせいだ。  
意を決して俺は恐怖の館の扉を開く。

### [#twnovel](#)

「お帰りなさい。お風呂にする？ご飯にする？」  
明るいキッチンにエプロン姿の嫁。これは夢か幻か。  
「それとも、このメールの説明がしたい？」  
浮気相手へのメールを誤送信したのは夢じゃなかった。

## アイフォン

---

「おいしい焼酎教えて」「赤霧！」

「いい温泉ないかな」「山鹿！」

「まだ見ぬ彼女ってどこにいるの？」

「中田さんの下のお嬢さんがいいわ」

### [#twnovel](#)

iPhoneを手に入れた。憧れのsiriさんへ質問攻めする、と何故か母が返事をする。

「少しは自分で調べなさい」

調べさせて。お願い。

## クローク

---

心の入り口にクロークができた。

使わない気持ちを預かってくれる。

今考えても意味のない明日の心配事を預けたら少し楽になった。

それじゃこれもと預けようとしたら「貴重品はなりませんよ」と断られる。

更に「恋心は過程に意味がありますので」とも。

今夜は心置き無く君だけを想おう。

[#twnovel](#)

## 海賊

---

水たまりに浮かぶ葉っぱに座り「進め！」と叫ぶ女の子。

「我は海賊なり」と高らかに名乗りをあげた。

「宝は見つかりましたかお嬢さん」訊ねると

「おじょお嬢？」慣れぬ呼び名に動揺し顔を伏せる。

しかし直ぐ様自信に満ちた表情で顔を上げた。

「貴様の心、頂戴する！」

冒険が今始まる。

[#twnovel](#)

## 自信

---

自信がなくなった。昨日の失敗のせいかな。

見つけ出さないといけないというのに、何しろ自信がないものだから、自信をもって探せない。

どうしていいのかわからずいると「また迷子になってたよ」君が自信を連れてきた。

「有難う」「大事にしてあげて」

僕の自信、取り戻すのはいつも君。

[#twnovel](#)

## 見えない

---

大切なものは目にみえない。

「はあ」だから仕方がないのだ。

「なんか邪魔」きっと悪気などないのだ。

そしてむしろ、愛しているから、大切だから、目に見えない。

[#twnovel](#)

休日。

妻が俺の存在を無視するかのようには掃除機で吸い込もうとするのは、  
きっと、そういう理屈。

## ボトルメール

---

無人島に流れ着いた。

救助を求めボトルメールを波に託すと返事がくる。

「嘘じゃない？」疑われた。

島での毎日を流し続けると今度は「もっと面白い毎日希望」との要求。

面白い手紙を心掛けると「このアカで直接呟いて」とツイート準備万端の携帯が届いた。

僕を助けたいと思った人RT。

[#twnovel](#)

## 旬のネタ

---

秘密の回転寿司屋が物書き界隈で大流行だ。

レーンには次から次へと新鮮なネタののった寿司が流れてくる。

できるだけ旬のネタを、と選べば目の前で奪われた。

上流の方が断然有利と席の変更を申し出ると

「あちらは直木賞作家様用、あの席は...」

見覚えのある作家達が金皿の寿司を食らう。

[#twnovel](#)

半分こしよ。一番おいしいところをあげる。

そう言うと君は1個しかないドーナツをペロリとたいらげた。

困惑する僕に「これが一番おいしいドーナツの穴よ」摘んだふりの指先を差し出し悪戯に笑う。

[#twnovel](#)

いただきます。

驚いた君の顔。

今まで食べたどのドーナツよりおいしくて甘い君の指先。

## 幼馴染み

---

昔は一緒にご飯、食べたよね。

半分こするのが嬉しかった。

なのに今じゃ恥ずかしがって少しもくれない。

僕は知ってる。

君のアイツへの涙を受け止めたあの日、気がついたんだ。

君は恋に落ちたって。

畜生。

僕を熱くする君。

いつかアイツの唇が僕に触れたら、

真っ赤になって威嚇してやる。

[#twnovel](#)

## 仕立屋

---

衣替え時期には仕立屋がやってきて、必要になりそうな服の見積りをしてくれる。

「ウェディングカタログ持ってきた。彼女と選びな」

「僕らまだ結婚は」

「俺の仕事今まで無駄があったか？」

ない。

僕は運命に従うことにした。

[#twnovel](#)

「渡しました」

「いい子ね。結婚後も貴方をお願いしますわ」

## ドロップス

---

缶を振るとカランと音がする。  
缶の中には飴玉1つ。  
これを食べたなら君との恋はオシマイだ。  
ハッカ味の多い恋だった。  
綺麗で辛いその飴を最初に纏めて食べたっけ。  
甘い飴を沢山舐めてそして最後はレモン味。  
僕らの恋には似合いだね。  
飴は思いの外甘酸っぱくて、僕は思わず噛み砕いた。

[#twnovel](#)

## 肩凝り

---

肩こりが酷い。

頭痛まで引き起こすその酷さに「憑かれてるんじゃない？」なんて笑われる始末。

妻に毎日マッサージして貰っているのに。

「そうだ、温泉いこう！」

一泊二日で温泉宿を予約した。

[#twnovel](#)

「ご予約は2名様で」「はい」

「お連れ様は？」「ここに」

「お連れ様は？」「妻はここに」

## ジェラワット

---

生まれてすぐに名前を貰った。

カッコイイ名前だ。

愛ある贈り物に感謝し恩に報いるため、すくすく育てて力をつけた。

それなのに。

僕に怯える人々。

ねえ囚人みたいに数字でなんか呼ばないで。

素敵な名前があるのに。

悲しみに荒れ狂う僕の名はジェラワット。

台風17号なんて呼ばないで。

[#twnovel](#)

## 飛んでった月曜

---

「猛威をふるった台風はその勢いで月曜日を吹き飛ばしました」  
曆から今日は剥がれ落ち、携帯の曜日も火曜表記だ。  
信じて、いいの？信じたい。信じるよ！  
軽やかな足取りで電車にのると、いつもより乗客たちの表情が明るい。

[#twnovel](#)

「ということで土曜日に月曜分仕事だ」  
デスヨネー。

## 自信保険

---

自信保険に加入した。

自信がぐらつき何事が起きた場合に保険金が支払われる。

仕事で失敗上司に叱られ自信喪失。出来ることも出来なくなりクビになった僕は保険申請する。

「自信のぐらつきが原因ですか」「そもそも不可能な事だったのでは」

自信を砕きつくされた僕は申請を取り下げた。

[#twnovel](#)

## 鉛色の悪魔

---

「この街も終わる」「まるで怪物だ」「鉛色の悪魔め」  
空を見上げ眉を顰める大人達。ただならぬその言動に子供達も空を見上げた。

[#twnovel](#)

「なんだオスプレイか」  
「本物の怪獣かと思って僕ちょっと期待しちゃった」  
「大人って想像力豊かだよな」  
爆音を見送ると3DSに再び視線を落とした。

## 残された書物

---

世界が終わる前に物語を書きあげたい。

渾身のファンタジー。

僕も世界も壊れた後の未来の誰かを楽しませておくれ。

[#twnovel](#)

「滅びた地球で発掘されたのはそれか」

「数世紀前の貴重な歴史書です」

「物語ではなく？」

「空想にしてはあまりに想像力に乏しいですし、第一つまらな過ぎますよ」

## 神様

---

毎日お参りしていく君は、お願いごとをしない。

手をあわせ、ただ祈る。慎み深く可愛い君。

そんな君がある日僕に願いをかけた。

「両思いになれますように」

相手はこの神社の息子だった。

成程。

残念ながら、君の願いは叶えたくな、叶えられません。

僕、商売繁盛の神様なんで。いや残念。

[#twnovel](#)

## 世界で一番美しい花

---

世界で一番美しい花に、世界で一番醜い虫が寄生した。

僕は迷わず、醜い虫を始末する。

[#twnovel](#)

花は枯れた。

虫を殺さなかったかと祖父に問われて頷くと、

寄生されているのは虫の方なのだと教えてくれた。

醜い虫を蔑むことでしか花は咲き誇れず生きてすらいけないと。

枯れた花卉が醜く落ちた。

初音さん

---

初音ミクみたいなの作れない？

上司は言うが、あれを超える現象は難しい。

作り手に売りつけて儲けられるソフトいいよね。

ミクを解ってない。

だけどそれなら簡単だ。

[#twnovel](#)

クリエイターが必要としているのは観客。

この初客ミルは、リップ、ファボ、RTで貴方を励まします。

ミルは案外売れた。

## ぼくらの幽霊学

---

ただ人を脅かせばいいという時代は終わった。

脅かせば逃げられる。

話し合った方が効率よく成仏できるのだ。

花子さんは幽霊学の授業に感銘を受けた。

そうよねまずは知り合わなくちゃ。

[#twnovel](#)

深夜、パンをくわえて走る花子さん。

今曲がり角で貴方とぶつかったその少女。

本当に、人間ですか？

## うそつき

---

好きってというのは嘘なんだ。本当は君が大嫌い。

刺々の言葉、そんなに恋を解消したい？

嘘つきの君。好きの反対は嫌いじゃないわ。

こうして君が、嫌いを説明するたびに、私はどんどん安心するの。

ねえ君のその、嘘の理由は何かしら。

嘘じゃないって嘘つきね。

君の好きしか信じないわ。

[#twnovel](#)

## 女子力の泉

---

伝説の女子力を求め旅にでた。

暗号の数式を解き、それを元に地図を読む。

同士と協力しあい泉へと辿り着いた。

[#twnovel](#)

「来ましたか」

女神は溜息をつく。さあ女子力を。

「この力、持つには基礎女子力を要します。地図が読め計算も協力も出来る人はちょっと」

辿りつけない者だけに資格がある。

## 障害物競争

---

「あれが障害？ちゃんちゃらおかしいわ」  
障害物競走を眺めながら君が呟く。  
「甘い飴に美味しいパンのどこが障害よ」  
「いや競技だし」  
「クリア前提の障害なんて笑わせるわ。  
現実には抜け出せない網に先が見えない綱渡り。  
探したって飴なんかないし、パンは勿論毒入りよ」  
一体何があった。

[#twnovel](#)

## 綱引き

---

綱引きのルールが変わったらしい。

力で勝敗を決するなどけしからんとそういう理由だ。

グラウンドに横たわる縄。

さあ始まる。

[#twnovel](#)

「痛い！痛い！」

向かい合う両チーム、縄の中心に括られた女の子を引っ張り合う引っ張り、おっとー

「こんな無意味な争いやめよう」

赤組縄を置いた。赤組勝利！

「蝉時雨」 「日本刀」 「枇杷」

---

枇杷の実ひとつ、庭先からくださったあの方はお侍の様だった。

私などにはよく分らぬが日本刀を脇にさしておられた。

「お前の瞳と同じ色だ」

果実に齧りつく。それは酷く甘かった。

[#twnovel](#)

あれ以来お姿を見ない。

噂では西の戦に赴かれたとか。

蝉時雨の中、背を丸めた私はあの方の庭先で眠る。

## 母

---

「あんた私に似てないけど本当に私の子？」

母が何度もそう言うので

「今迄育ててくれて有難う。実は私は月の住人なのです」

とふざけてみた。すると。

「それじゃあんたを見つけたあの竹藪は…」

真剣な顔で呟いて

「あ、いや何でもないの」

ハハハと笑う母。

ちょっと待て。今何て言った。

[#twnovel](#)

似てないと呪文をかけ続けるのは似ない方が幸せだと思うから。

私の都合を押し付けられる度嫌な顔してただけの貴方が

「実は月の住人なのです」なんて素敵なお返事してきたから嬉しくなっちゃったの。

心配しないで。

そんな私好みの返答、実の娘でもなきゃできないわ。

[#twnovel](#) [#twremix](#)

## 黒歴史

---

夫の黒歴史とやらを見つけた。  
屋根裏の小さな段ボールで荒ぶっていたそれは、  
「我は片翼の黒き天使」と震える声で名乗りをあげる。  
夫がひた隠しにしていた黒歴史。  
どれほどの物かと思ったらこの程度なのね。  
夫らしい。  
折角だから、育てておこう。  
何かの時には私の味方になってよね。

[#twnovel](#)

## 私の彼

---

「彼、地味なタイプで長年彼女もいなかったんです。  
それなのに付き合い始めてからメチャクチャ格好良くなっちゃって。  
そうしたら！男を盗るのが趣味の女に目をつけられたんです。  
前から私の彼よ、なんて言って彼に無理やりキスしたりして...」

[#twnovel](#)

「彼氏さんのお名前は？」 「尖閣です」

## サボテン

---

僕の彼女がサボテンになった。

厳しい環境に適応するためには止むを得なかったらしい。

そのトゲで、僅かな幸せを逃さぬように、喰われぬように身を守る。

君のことを上手に愛せなくてごめんなさい。

抱きしめた君のトゲが僕を刺す。

[#twnovel](#)

翌日咲いた赤い花。

美しいその花に僕は口付けをする。

## 結婚の条件

---

あの人もダメ。

失敗しない結婚を求めて男を観察していると、条件だけが増えていく。

これじゃ見つかるものも見つからない。

もう、作るしか。

[#twnovel](#)

全ての条件をプログラムする、ために取り敢えず有能なプログラマーと結婚した。

今は二次元に理想の彼がいる。

早く三次元にしてよね、旦那様。

## 再生医療

---

再生医療で君への恋心を再生する。

わずかな恋愛も逃せない恋愛氷河期の今。

色あせた想いを再生し恋愛感情を取り戻すのは当たり前となった。

少しの投資は必要だけど、僕らの素敵な未来のためだ。

[#twnovel](#)

「再生は不可能です」

医師は言う。

「元々無いものを再び作ることはできませんから」

## ノーベル賞

---

意外な一面などない鉄壁のノーベル賞受賞者になりたい。

だから。

友達はやらない。孤高の方がそれらしいし、色々喋られたら面倒だ。

面白いこと言わない。無趣味。奥さんと仲悪い、いや結婚しない方がいいか。

僕はそれらしい人間になった。

さてと、賞をとるには何を始めるといいのかな。

[#twnovel](#)

## 文豪の缶詰

---

文豪の缶詰を買った。

パカッと開けると迷惑そうに僕を睨む。

「差し入れは甘味にしてくれ」

それだけ言うと、文豪は背を向け悩み始めた。

僕は桃色の金平糖を差し入れる。

ガリガリと豪快にその星を齧ると、文豪は一気に物語を書きあげた。

あの人にはとても不似合いな、星降る夜の恋物語。

[#twnovel](#)

## 夢の世界

---

夢の中まで開発の手が伸びている。

今日はとうとう入場料をとられた。夢も希望もありゃしない。

文句を言うと、

「夢みたいなこと言うなよタダでできるか遊びじゃねえんだ」

と凄まれた。僕の夢なのに。

ならばと借夢料を請求すると、

「そんな夢のないこと言うなよ」

背を向ける開発者。

[#twnovel](#)

## 読書

---

本を読んでいた。とても怖い本だった。

人が次々辛い目に合う短編小説集。

けれどその本を途中で投げ出すわけにはいかなかった。

そんなことしたなら、本の中での涙が全て無駄になる気がして。

僕は読む。ああ、もうどこまで読んだろう。

[#twnovel](#)

本の頁が一枚増えた。彼の物語をご覧ください。

## ウィルス

---

ウィルスにおかされたPCは、  
ハクション、くしゃみが止まらない。  
くしゃみと同時に次々と、大事な物が外に出る。  
ハクション。あの日の浮気の写真。  
ハクション。あの子とキスしてる。  
ハクション。彼女に見つかった。  
ハクション。見る間に彼女に角が。  
ハクション。どうかお大事に。

[#twnovel](#)

## #twnvday 『酒』

---

憧れの君との最初のキスは苦い思い出。  
少しずつ関係を深めるうちに離れられなくなってたね。  
優しく酔わせてくれる君。  
こんな夜は離れ難くて、ついに一線を越えたのが間違いだった。  
君がこんなに性質の悪い女だとは。

### #twnvday

自業自得でしょ。  
頭の痛い僕に、空っぽの一升瓶が囁いた気がした。

血が赤ワインでできてるなどと自慢した愚か者がいたようだな。  
あの程度のアルコール度数で誇らしげとは恥知らずよ。  
吾輩はウォッカの血。信じられぬか。  
ならば一杯捧げてみよ。  
ウォッカの神は僕から一杯奢られると、次は隣のテーブルでアブサンの神になった。  
頭のネクタイが神々しい。

### #twnvday

酒に呑まれた。  
猪口から溢れだした日本酒に易易と流された。  
呑まれた以上腹を括ろう。酒を程よく酔わせたい。  
溶けていく俺。  
そうかこれが「酔わせる」か。  
なかなか幸せな瞬間だ。考える頭も憂鬱な心も全て全てが消えていく。

### #twnvday

その後どうなったの？  
いえ酒に呑まれた者の戯言ですから。

水と酒の違いって、酔いじゃない？ それって言葉も同じじゃない？  
僕の言葉で君は酔うの？ 僕の言葉は君にとって、何%のアルコール？

### #twnvday

貴方なんて甘いお酒に決まってる。  
けれど実はとびきり度数が強いついていうタチの悪いヤツよ。  
酔い潰れた耳元に囁く。  
私は何%のアルコール？

## 絵本

---

絵本から飛び出した妖精がひとまわりすると、物語が部屋を占拠した。  
天井に広がる満天の星。月下を駆ける僕の船には海賊旗が揺れる。  
宝石の瞳の美しき姫君を救いだしに行くのだ。  
月影にイルカが跳ねて僕らの旅路を導く。

[#twnovel](#)

おやすみなさいよい夢を。  
怪我には気をつけてね。パタン。

## 1万ツイート

---

散々弄んで酷い。眩きが復讐を始めた。

忘れられた眩きが自己を主張する。

ツイッターを逆流する黒い文字に占拠された僕の部屋は、けれど案外温かくて。

愛していると眩くと、眩きはピタリと流れを止めた。

時々思い出してよね。

正しい流れの彼方へ。眩きは姿を消した。

[#twnovel](#)

1万ツイート記念

## 幸せの靴

---

幸せの靴を手に入れた。

足の向くまま日々を歩むが変化はない。

願いは叶わず憧れには手が届かぬままだ。

けれども私は感謝した。

私の願いは憧れは、きっと不幸の入口なのだ。

私は靴に守られている。

[#twnovel](#)

本当は不幸の靴だと教えないの？と悪魔が問うと、

幸せはそれぞれよと天使は答えた。

## 滅び行く世界

---

滅びた世界に溜息をつく。また一からの作り直し。

全ての存在に物語を抱かせ地上へと降ろす。

なんて地道で憂鬱な作業。

ああ、そういえばいいのがあるわ。

神は図書館へ向かうと、あらゆる本の中身を地上へバラ撒いた。

[#twnovel](#)

かつてないスピードで世界は破滅へと走る。

[#twnovel](#)

## 時間

---

僕は「時間」と暮らしてる。

規則正しい君が、眠って起きたら朝が来る。

ならば眠らせなければいい。

必死におどけて、君を笑わせ続ける僕に、けれども君は一緒に寝ようと甘えて誘う。

気づけば僕らは夢の中。

迎えた朝の、寝ぼけた君が可愛くて、僕はどんどん嫌いな明日を好きになる。

[#twnovel](#)

## カレー

---

苦い思い出をどうにかしたくてカレーにいれた。

数日煮込んでようやく噛み切れる硬さになったのでいただくと、苦味はカレーに溶けていた。

とても美味しいとは言えない。

けれども。

誘われるように一口、二口。何度も味を確かめてしまう。

複雑な味わい。

時間をかければ、もしかしたら。

[#twnovel](#)

降りだした雨は困っていた。

今更引っ込みがつかない。降るはずじゃなかったのに。

花開く傘に追い詰められオロオロしていると、子供が走った。

いけない風邪をひいてしまう。

濡れぬようにとそこだけ雨を上げたなら、周りの大人が次々傘を閉じた。

雨は上がる。

空にはいつもより大きな虹。 [#twnovel](#)

## 椛

---

貴方への想いは変わらませぬ。そう言って妻は死んだ。

不思議な女だった。不意に訪れ僕の心を盗みだすと間もなく命を落とした。

約束通り裏山の赤い椛の根本に埋める。椛は散らなかった。巡る季節を越えて、燃え続ける椛。

[#twnovel](#)

毎年秋になると妻が訪れる。繰り返す恋と死。裏山は永遠の赤。

## 機械

---

機械の体を手に入れた。不滅の命？ご冗談。

生身の身体で生きてる限り安らかになど死ねないでしょう。

生身は取り返しがつかないと無暗に延命されるでしょう。

そこで機械の体です。

すぐに直せる気安さで、放っておいてもくれるでしょう。

螺子を抜いたら、おやすみなさい良い夢を永遠に。

[#twnovel](#)

## 逃亡者

---

逃げちゃダメだと言われた。

そんな日陰に隠れてないで出ておいでと言われた。

寒いでしょう淋しいでしょう。

ずっとここに留まれないのは私自身も解ってる。

差し伸べられた手。私は。

#twnovel

いけない。これ影踏み鬼じゃん。鬼ごっこじゃん。

精神攻撃を仕掛ける鬼が、「凶星だった？」と笑う。

## 遺伝子組み換え

---

遺伝子組み換えをする人が増えた。

厳しい世の中に負けないためだ。

僕の肩にも表記がある。

お陰で仕事に困らず豊かに暮らせて彼女もできた。

「結婚して下さい」

僕の求婚に俯く彼女。

「貴方遺伝子組み換えよね。うちのパパそういうのダメなの」

豊かな純製一族は、血を守るのに必死だ。

[#twnovel](#)

## 男女

---

男だって女だっていいじゃない。

中性的な私だけれど恋でもしなけりゃどっちだって。

潤んだ瞳。貴方、私を愛したの。

気をつけて。

隣の女も私の性別気にしてる。

心変わりを気づかれてるわ。

家庭を壊してまでも、貴方が欲しいと思えない。

[#twnovel](#)

「男かな女かな」「四ヶ月じゃまだ解りません」

## オチツケ

---

オチがいなくなった。どこを探しても見つからない。

仕方なくオチのない話を書いたら、まるで人生そのものようだ、と意外にも好評だった。

そんな様子を窺うオチ。

寂しかった。僕がいなくとも、[#twnovel](#) は続く。

悲しみの中オチは旅立つ。

もっと壮大な、世界という物語にオチをつけてやる。

## 娘5歳

---

結婚したい。ドレス着たいし。

どうしてヒロト君がいいかって言うと、優しいっちゃん？

でもモテるし。

ダメならリク君か。迷う～。

結婚したい。

結婚？何っていうと、男と女と一緒に住んで、ご飯とか作ってあげること。

好き？うーん好きなのはみっちゃん。可愛いし。

(5歳幼稚園児)

[#twnovel](#)

## 盲導

---

生き物かもしくは生き物ではない何かの手を引いている。

僕の仕事は盲目のそれを導くこと。

古の地球人の言葉は通じないし、その言葉も僕には解らない。

分かり合えないはずの僕ら。

それでも毎日手を繋ぐ。

ねえ今日はとても空が綺麗だよ。

僕の言葉に空を見上げてそれは（多分）笑った。

[#twnovel](#)

## ラーメンの海

---

ラーメンの海を泳いでみた。

温かい。漂っていたらどうしようもなくお腹が空いてきたので食べた。

周りのラーメンが減っていく。寒い。

けれども誘惑には勝てず、やがて井の底に横たわる僕の亡骸。

[#twnovel](#)

新しい井。ニンゲンをタベタ。

だけど動かなくなるなんて。

マタ新しいのを探さなくちゃ。

ぐるぐる

---

全自動洗濯機は回り続ける。グルグル。  
私ほどになりますと、おパンツなんかは洗いません。  
洗濯物を選択します。  
汚れが目立つ、  
もの、モノ。  
彷徨い歩いて探し当てた、  
あなた、アナタ。  
汚れています。  
ヒトノココロ。グルグル。  
さて人類はこれでお終い。お次は何を洗いましょう。

[#twnovel](#)

## 妖精さん

---

「気紛れ妖精の愛欲ケーキ。あーんしてくれたら結婚成立」  
君の返事は可愛い意地悪。あえて大声で注文すると奥で皿の割れる音がした。  
「妖精はシェフの奥様が仕入れてましたが家出してまして」  
給仕の話に涙ぐむ君。  
というわけで気紛れ妖精を探す旅をしている。  
この旅が終わればきっと。

[#twnovel](#)

数日前から小人がウロついてる。

こっそり何かをしてるみたい。

「彼女いないか確かめろ！」

片想いの先輩を調べてる？じっと見てたら目があった。

「チッ」気まずそうな小人達。

「俺ら(株)流星が願いを叶えに来た」

先輩と付き合いたいと星に願ったな。

「いた？別れさせろ！」

叶うかも。

[#twnovel](#)

「脅迫メールが」

「こっちもです」

「警備増員！」

「これ以上無理です」

「3日寝てません」

「畜生、遠隔操作ウィルス事件以来脅迫メール地獄だ」

「帰りたい…」

### [#twnovel](#)

「先輩また脅迫メールです！佐藤家を爆破する。これ標的俺んちみたいなんで警備行きます！」

「佐藤…逮捕するぞ？」

## 大器晩成

---

占い師に大器晩成型だと言われた。

遅咲きだけれど未来は明るい。

俺はその言葉を信じた。

デートに誘われても、出世を仄めかされても、宝くじが当たっても、全てを拒否し続けた。

こんな所で小さな幸せに躓いて、未来を捨てるほど愚かじゃない。

孤独な俺は幸せだ。

未来は約束されている。

[#twnovel](#)

## 花は咲く

---

花は、吸う。

もっともっと養分を頂戴。

茎は伸び、葉は茂り、やがて大きな蕾をつけた。

もっともっとよ。

僕を越えて、雲を越えて、見えなくなったその蕾。

もっともっと養分を頂戴。

地上は枯れた。そして誰もいなくなった。

無論僕も。

もっともっとよ。

天上でひとり、咲き誇る美しい花。

[#twnovel](#)

「iPadミニ発売だって。君のミニもあるといいのに」

「そう？」

「可愛い君と、いつでも一緒にいたいから」

「いやん」

「それに小さいって可愛いし、軽いし、軽いし」

「大事なことから2回言いました？」

「いえ、滅相もない」

[#twnovel](#)

## 自販機

---

自動販売機にコインを入れる。

チャーン。

「問題です。世界で一番可愛い生き物は？」

ジュースの下のボタンに写真が並ぶ。

猫、犬、トカゲ。

僕の飲みたいジュースはトカゲボタンの場所にある。

けれど。

「やっぱり猫が好きっ」

ブブー。ジュースは出てこない。

足元をトカゲが走った。

[#twnovel](#)

## コールセンター

---

コールセンターの電話が鳴る。電話をとる。  
それが私のお仕事。  
どこかの国のTVで流れる注文を受ける。  
翻訳機付きの電話を使って語学力など問われない。  
一体どんな国からかしら。  
私は翻訳機をそっと外す。

### [#twnovel](#)

高く低く歌う様にこの世のものではない様に。  
多分きっと、「声」が聞こえる。

## グルグル

---

斜めをググると斜めになるし、一回転をググれば一回転する。

ならばと僕は「恋」をググる。ああ、この感じが恋なのか。

味わうことしばし、不意に現実へと戻された。

もう一度もう一度。

飽きることなく僕は恋をググる。

[#twnovel](#)

「お兄ちゃんどうしたの？その検索エンジン何？グルグルって何？」

## 整理整頓

---

気持ちの整理をつけたくて、収納スペースを広くとった。

仕事で失敗OKOK。彼女に男がOKOK。

どんな感情だって今の僕には受入れ可能だ。

足りなくなったらまたスペースを広げればいい。

[#twnovel](#)

今や収納だらけで随分と狭くなった僕の心は加速度的に整理すべき気持ちを作り出していく。

## 不安

---

「先生、不安で仕方ないんです」

「そうですか。じゃあ今度はこの薬をおだししましょう」

処方すると、医師はお大事にと手を振った。

### [#twnovel](#)

「先生あの人最近来ませんね」

「薬が効いたんでしょうね」

「あの薬何ですか？」

「不安薬です。あの人不安に慣れすぎて不安がないと不安なんですよ」

きちやった

---

きちやった。

ドアを開けると別れたばかりの君。

あいつはどうした、と聞くと目を伏せた。

大方仕事にでも取られたのだろう。

貴方じゃなきゃダメなの。質の悪い君の誘い。

僕は君とベッドを共にした熱い日々を思い出していた。

震える指先。僕は君を受け入れる。

[#twnovel](#)

はくしょん。また風邪だ。

## 言い訳

---

だってまだ仕事かも。

だって食事の時間だし。

だってきっと寝ているわ。

言い訳を並び立て、0時を過ぎる頃ようやく安心する。

こんな時間。

だから今夜は仕方ない。

お茶を淹れた。

着メロが鳴る。

慌ててとると「ゴメン」と謝る彼。

私も謝る。

仲直りするのに言い訳も理由もいらなかった。

[#twnovel](#)

TV画面から髪の乱れた白い服の女が出てきた。

何てこった。

恐ろしさのあまり僕は彼女に風呂を勧め、髪を整えさせた。

汚れた服の代わりにゆるふわ森ガール風の服を与え化粧もさせた。

可愛いは作れる。もう怖くない。

三次元に愛想を尽かしてはや数年。

久しぶりに僕に彼女ができました。

[#twnovel](#)

## 城

---

骨董品屋で見つけた小さな城の中にはお姫様が住むらしい。

店主は語る。

高価な宝石、珍しい甘味、執拗な脅しにも屈せずもはや数百年。

姫は城からでてこない。

難攻不落の城。ならば僕は。

[#twnovel](#)

「城には美しい姫がおりました」

姫に必要なのは美しき物語。

出ておいで。続きは僕の掌の上で。

## 人生の図書館

---

ようこそ人生の図書館へ。

これから始まる人生が本の形で並ぶ場所。

生まれる前の文字など読めない貴方が選ぶ貴方の人生。

お薦めなどはございません。こんなに多くちゃわかりません。

お決まりですね。

そうそう。

どんな本でも読み方次第で素敵な人生になるですよ。

いってらっしゃい。

[#twnovel](#)

### 3分間クッキング

---

料理番組を見ていた彼が、

「これこそ厚焼き卵だよ。店のはなんか上品ぶってて食べる気がなくてさ」と言う。

画面を見ると、焦げてる。焦げすぎ。

明らかに失敗したそれを「実家と同じだ」と喜ぶ彼。

彼のお母さんの料理の下手さ加減に安心し、彼に潜むマザコンの可能性に困惑する。

[#twnovel](#)

ドラマを見ていた彼が、

「これこそ旅だよ。いい旅 気分は上品ぶってて行く気がなくてさ」と言う。

画面を見ると、女子大生の死体。肌色過ぎ。

どう見ても湯けむり温泉シリーズを「両親がした旅と同じだ」と喜ぶ彼。

彼に潜む探偵の可能性に別れを決める。

[@hyuugahikage #twremix](#)

## 木枯らし一号

---

お兄ちゃんばかりズルい！

私はいつも無視されるのに、こんなにみんなに認められて。

私とお兄ちゃんの違いなんて、先か後かなだけじゃない。

なのに私、名前すら呼ばれないの。

お兄ちゃんのバカ！ 大嫌い！

[#twnovel](#)

兄、木枯らし一号の背中を睨みつける木枯らし二号は春二番と仲がいい。

## 花束を君に

---

花と少女と蝶々を束ねて花束を作ると、悪魔は愛しい天使に差し出した。

天使はぷいっと横を向く。

花束は花で作るのよ。

美しい花で作ったじゃないか。

これとこれとは花じゃないわ。

花みたいなもんだろう。

いい加減な人って大嫌いよ。

[#twnovel](#)

悪魔はため息をつく。何度見ても違いがわからない。

## 惨劇を越えて行け

---

ここまでくれば大丈夫だ。

この場所に僕を知る者は少ない。言葉すら通じぬ者ばかりだ。

繰り返される悲劇が終わりを告げるであろう予感に安堵する。

これ以上僕は人が死ぬのを見たくない。

### [#twnovel](#)

絵本コーナーの絵本の狭間に人気推理小説を見つけた。

子供向けじゃないと思うけど、何故ここに？

## 探偵募集中

---

名探偵募集中。履歴書を送ると手紙が来た。

中には一枚の写真。

「この人物を探し出し居場所を下記へ連絡せよ」

メールアドレスが書いてある。

試験ってわけか。よし、やってやる。

[#twnovel](#)

「所長、自分が受けた依頼で試験するのやめて下さい」

「無料で人使えるのに」

「所長」

「何だ」

「ドケチ」

## Trick or Treat

---

Trick or Treat！と言ってドアを開けるあなたにお菓子を差し出す。

昨日初めて作ったクッキー。

「食べていい？」「もちろん」

あなたへ恋心で、甘くなり過ぎてなければいいけれど。

[#twnovel](#)

「おいしかった？」

彼女には言えない。これはなんの悪戯ですか、とはとても言えない。

## 夏休みが倒せない

---

夏休みの宿題が終わらないので、僕はタイムマシーンを作る。

何度繰り返しても宿題は終わらない。

何度目かの夏休み最後の日、先生が来た。

「夏休みに住み着いたのはお前か。終わらない宿題ってなんだ？」

「夏休みの作品」

「タイムマシーンは作品に入ります」

僕の長い夏休みは終わった。

[#書き出し](#)

## 絶望の井戸

---

絶望は塞がれた井戸に似ている。

祖母宅の蓋付き井戸を見て思う。

昨日失恋した僕の絶望、その深さなんて見えないだろう？

[#書き出し](#)

「うらめしや」

井戸の蓋を押しつけて突然出てきた幼馴染み。

「失恋くらい何よ情けない」笑う。

その井戸の深さは1m。思いがけず浅い。

絶望も案外こんなものかもね。

## イヤホンの少女

---

「そのイヤホン、ちょっと貸していただけませんか？ 片方だけで結構ですから」  
清楚で可憐な娘にそう言われたんじゃ、貸すしかない。恋人みたいに片方ずつの僕ら。

### [#書き出し](#)

開始、と呟くとその娘はマッチョな男に変身した。

音楽の印象通りに変形するらしい。

あの、さっきの娘に戻すにはどの音楽が？

## 二番

---

名曲の二番の歌詞のような恋だった。

素敵な恋を維持するために無理して形を整えて。

一番じゃない理由は簡単。私が可愛くないからだ。

他の誰かと貴方だったらきっと一番だったのに。

[#書き出し](#)

そう言ったなら貴方は笑う。

二番が素敵な歌もあるよ。

愛と勇気だけが友達の アンパンマンのマーチとかね。

## 魔王

---

金が欲しくて応募した短期バイトが、まさか魔王だとは思わなかった。

世界を滅亡させる作家が多くて数が足りないらしい。

マニュアル通りやればいいからって。はいはい。

### [#書き出し](#)

悪そうに偉そうに媚びず曲がらず目的持って。

多少痛いけどいい仕事だ。

僕は魔王。時給800円。

正社員、狙ってます。

## 地獄

---

電車で揺られて三十分。地獄は意外と近かった。

「大人1枚」切符を買って地獄と書かれた門をくぐる。

どんな鬼が、どんな針山が。

残酷な妄想に胸は高鳴る。

### #書き出し

「やだあなたもう帰ったの？ご飯なんてないわよ」

門の向こうはいつも通りの我家。

いつもの鬼嫁、針のむしろ。

地獄ってここ？金返せ。

いってらっしゃい

---

その言葉が、聞きたかった。

泣いてた君が思い出したように言ってくれたいつもの言葉。

なかなか言い出してくれないものだから、どうしたものかと思っていた。

[#書き出し](#)

そういえばあなた旅立ちですものね。

心臓がやけに頑張っってどんな未練がと思ったら。

天国までお気をつけて。

「いってらっしゃい」

## 髪を切る

---

「一髪、切ったんだね」

撫でてくれる彼の手が、前よりも温かく感じた。

他の女と結婚した貴方への当てつけ。罪悪感で苦しんでよ。

なのに貴方は「似合うよ」なんて。

ああ、その笑顔で私は全て許してしまう。

[#書き出し](#)

「お前みたいな娘欲しいな」

バカ。私みたいな素晴らしい5歳は滅多にいないのよ。

## 世界が終わる前に

---

世界が終わる三分前。

TVは同じ事しか言わないからもう消した。

みんなもTVに飽きたのか、ネットは、ツイッターは賑やかだ。

さあ時間だ。5 4 3 2 1

[#書き出し](#)

「予想通りだ」

終わらない世界。

「実験するまでもなかったな」

「世界の終わりの最多呟きは、バルス」

ツイッター社会実験終了。

## 切ない別れ

---

最初から離れていたのに一度会ってしまえば別れがこんなにも切なくなる。

だけど泣いても笑っても状況は変わらないから笑って手を振った。

帰り道の電車の中、貴方のツイートを確認する。

ツイッター中毒の貴方が全くツイートしていないのは今日が楽しかったから？

それとも秘密にしたいから？

[#書き出し](#)

## 君がいない世界

---

君がいない未来は描きたくありませんってつまり不可能じゃないってことだ。  
僕にはできない。もし出来るとしたなら貴方も僕もいない世界。

「帰るわ」

ピアスをつける貴方。帰したくなくて背中から抱きしめる。

「聞き分けて」

そうして貴方は帰っていく。僕のいない未来へ繋がる貴方の現実へ。

[#書き出し](#)

## 皿屋敷

---

私はわざと、皿を落としました。

落とさなければ数が合いそうだったので。

次の日もまた足りそうでした。私はまたもや落とします。

「一枚たりない」未練がましく囁く私にご主人様が言いました。

「成仏したっていいんだよ」

余計なお世話。

成仏したらもう二度と、貴方と逢えなくなるじゃない。

[#書き出し](#)

## 停電

---

「停電？」突然消えた電気を二人で見上げる。  
初めてのおうちデートなのになんだか気まずい。  
沈黙の後、彼の吐息が顔にかかった。  
近づく唇。  
私達、はじめてのキスをする。

### [#書き出し](#)

「次もお願いします」  
僕は電話を切る。  
「計画停電サービス」次回は長めに予約した。  
次はいよいよはじめての...ふふっ。

## 目的地

---

電車に乗って一時間、開かない扉に不安になって車掌に声をかける。

「次はどこ駅ですか」

車掌は不思議な顔をする。

「どこって自分の目的地でしょ？」

そして切符を拝見しますと言った。

ポケットから取り出すと切符は白紙。

「お客さん早く目的地決めてね」

残業確定だなと溜息をつく車掌。

[#書き出し](#)

## 戦場

---

「人は皆、社会という名の戦場を駆ける孤独な戦士である」

彼女は酔っ払うとかならずこう言った。

ゲーム好き？酒は人を暴くよね。

いつになく酔った彼女を送ろうと手をとる。

「危ないからダメ」って信用がない。

[#書き出し](#)

「仲間連れとはな」「彼は関係ない！」

行く手を塞ぐその異形の怪物は一体...

## 欲しいの

---

「アナタのしんぞー、くださいなっ♪」

赤い着物の幼女が、いきなりこう言ってきたんだ。

新しい遊びか？趣味の悪い。

「変なこと言うと可愛くないぞ」

窘めると驚いた顔。

「知らなかったありがとー」

素直だな。いい子だと頭をなでる。

と、あれ？僕いつの間にかお稲荷様撫でてる。

赤い、きつね？

[#書き出し](#)

## 探偵

---

最近、私の近辺を探偵がうろついている。

「この仕事が終わったら結婚するんだ」

探偵はその言葉を聞いていた。

死亡フラグに私が負けて謎の死を遂げるのを期待しているのかもしれない。

[#書き出し](#)

そんなある日、

「彼は渡さん！」

突然探偵に襲われた。

まさかの探偵犯人説？ていうか探偵さん男だよな？

## 養殖

---

その恋は養殖かい？いや、誤字じゃなくってさ。  
最近養殖もんだらけだ。  
濃厚だし恋には甘さをもってこの時代にはお似合いの。  
けどな恋って甘いだけじゃないんだぜ。  
だいたい養殖もんじゃ愛に進化しづらいんだ。  
食ってみないか？野生の恋。

### #書き出し

男が指した方に逃げた恋を追う。  
僕は愛を知りたい。

## シュークリーム

---

若者のシュークリーム離れが止まらない。

その対策で作られた若者向けシュークリームの宣伝番組をお昼のTVが流してる。

中身にアイスやチョコ、カレーのような若者らしいものが入ったというのだ。

翌日、シュークリーム店には人が並んだ。

平均年齢60歳。昼間TVを見る若者などいない。

[#書き出し](#)

## 吾輩は

---

吾輩は猫ではない。本当だ。信じてくれ。頼むから。

にゃーとないた覚えはないし爪だって長くない。何より吾輩二足歩行だ。

名前がないってだけで猫扱い。つけてあげる？結構です。

なんだその服は。なんだその仲間達は。

### [#書き出し](#)

「私、キティー」

吾輩は猫ではない、が、名前を授かり働きはじめた。

## 検索できません

---

「この単語は、検索できません」

初めて見る文言だ。

おかしいなこれ前はできた気がする。

簡単な単語だし調べられたって。自分だって解らなくて調べてるのに何で簡単とか思う俺。

でもこの単語、どこかで。

[#書き出し](#)

「リストラ言葉に気づかれそうです」

「頑張れを覚えてる奴がいたとは...抹殺しろ」

## 祈り

---

祈りもしないのに、神様の慈悲を求めている。

うまくいかない理由全てを僕以外の何かに押し付けて。

世界は僕に優しくない。

「一緒に学校行こうよ」「チョコ作ったの食べてね」

そうお節介な君以外は。

差し伸べられる君の手を無遠慮にとる。

僕は、恋に落ちようともせずに、君の愛を求めている。

[#書き出し](#)

# 秋

---

秋が訪れない。

お前が執拗に居座ってるせいで皆が言う。

疎まれる事には慣れてるし今じゃむしろ快感だから黙ってた。

でも折角だし教えるわ。貴方達騙されてる。

私は秋に雇われてるの。引き立てるための秋の演出。

秋はね怖いわよ？

あらチャイム誰かしら。

[#書き出し](#)

今年の残暑は意外と早く終わった。

## ピンクの熊

---

気が付いたら、ピンクの熊が目の前にいた。

戸惑う俺。どうやら仲間らしい狐と狸が「クマがでたぞー」と騒ぎたてる。

その言葉に逃げ惑う人々。

パニックの中、可愛らしいピンクの熊と赤い狐と緑の狸は呆然と立ち尽くした。

[#書き出し](#)

「新商品の宣伝だったんです」

お詫びに貰ったピンクの熊が美味しい。

## ハンカチ

---

見た覚えのないハンカチが、クローゼットから出てきた。  
見覚えが、ない？いやこの古ぼけたハンカチは。

### [#書き出し](#)

ぽん。僕の肩に誰かの手。

「次は君が鬼だ」

そうだ。

昔ハンカチ落としをした時に見た覚えがある。

振り返る。誰もいない。

僕はハンカチを握りしめる。

僕はどこにハンカチを落とそうか。

## 芽

---

店で可愛い服を見掛けると着る当ても無いのに買っては筆筒の肥しにしてしまう。

ある日、その肥しから芽が生えて来た。

その芽は育ち少女の形の実をつける。

肥しの服を楽しげに着替える少女。

もっともっとよ。

[#書き出し](#)

バックも靴も携帯も家族も彼氏も気づけば全てとられてた。

私を肥しに少女は笑う。

## 秋空

---

一番人気は秋空です。

高さあつての透明感。翳雲も愛らしい。

そして何より表情が変わるところが堪らないと皆様にご支持頂いております。

### [#締め](#)

空を石に加工し婚約指輪にするのが流行ってる。

色が変わるのが心変わりに通じそうでとお薦めの秋は断ったけど、

僕の稼ぎで秋の空は高すぎて手が届かない。

123日前、つまり4月前の今日、5月。

6人目の白雪姫を迎え、7人の小人は歓迎のケーキを8等分して美味しく食べた。

窓の外には林檎売り。

以前の白雪姫達は、もれなく毒林檎を食べ死んだ。

王子様がやってくるまで馬鹿げた悲劇は繰り返される。

さあ考えて白雪姫。九死に一生得るために。

[#書き出し](#)

## 聴こえない雨音

---

雨が降っているのに雨音が聴こえなかったのは、ミュートしたから。

騒音問題と奏でる自由。

その画期的な解決策がミュート機能だった。

僕ら進化して便利になって同時に何かを失った。

雨は降る。

音のない雨に現実感など感じられず、傘もささずに僕は外へ。

雨にぬれる機械の体は、錆びて止まっ

[#書き出し](#)

## 尻尾

---

お客さま、尻尾はお仕舞いになっていただけますでしょうか？

こっそり申し上げると少し驚かれ有難うと会釈するお客様。

指にはダイヤの指輪。御目出度うございます。

### [#書き出し](#)

当レストラン、尻尾を出してしまうほど、人を愛した狐に悪魔に物の怪様など、人外様を応援します。

ご健闘をお祈りします。

## 感情

---

好意も悪意も君を壊す材料になるから君の心のやわらかなその部分に鍵をかけた。

強い気持ちは矛盾を生み出し機械の心をダメにする。

今の君は、僕を決して憎まないし、僕を決して愛さない。

それでもいいんだ問題ないよ。君が側にいてくれるなら。

愛がないなど、とても些細なことだから。

[#書き出し](#)

あいうえ

---

あいうえ、抹消されたおの行方。

証拠集めて推理して、私は彼へと辿り着く。

[#書き出し](#)

「君が好きだ」突然の告白。

一体何を企んでるの？答えようとして気づく。

私達「お」がない。心を表す「尾」がないの。

尻尾の無かった昔のように言葉を尽くして答える私。

「言葉になると嬉しいね」

犯人はきっと君。

## ガタンゴトン

---

息切れするほど走って向かった。

走っても多分追いつかないのは分かってる、だけど。ごめん。

嫌いだなんて嘘ついた。

寂しくて悔しくて。

発車のベル。

君を乗せて走りだす電車。扉の向こうの君が僕に気がついた。

「私ハスキダE」

曇りガラスに君からの告白。

ガタンゴトン。

僕らの恋も走りだす。

[#書き出し](#)

## 救い

---

救われたいといいながら彼女は、その本を何度も読んで泣いていた。

まだ救われない、まだまだだわ。

ただ読んでたって救われるはずがないじゃない。

見かねて言うと、不思議な顔で僕を見た。

救われないのはいけないかしら？

もし救われてしまったならば、また目的を探さなければいけないのに。

[#書き出し](#)

## 恋する乙女

---

恋する乙女よ、ちょっと黙れ。

振り向くとピタリお喋りが止まる。

再び顔を覆うとすぐに始まるお喋り。

先輩が素敵...告白しなよ...女と歩いて...

ちょっと黙れ。ピタ。

次辺りだなと警戒しながら顔を覆うと、ちゅ、キスされた。

誰の仕業か当てたらその子は僕の物っていう素敵ゲーム。

[#書き出し](#)

あ、寝てた。

私

---

「どうして……私なの？」

探偵が不躰に指したのは私だった。

「犯人は貴方だ」「違う」「貴方です」「そんなつもりは」

「被害者が言うのですから間違いありません」

[#書き出し](#)

盗まれたものは探偵さんの心。

犯人は私。

どうせ罪に問われるというのなら、残さずあなたを食べちゃってからでいいかしら。

## 天気予報さん

---

天気予報が本当を言った。

本当は私不安なの。予報は本来推測だから時に間違えたりするわ。

けれど信じてくれるみんなを私裏切りたくないの。

みんなに愛される私でいたい。

[#書き出し](#)

涙と共に予報もださず終わる天気予報。

初めての時は驚いたけれどもうお馴染みだ。

台風で天気が乱れるとこのパターン。

## 月の基盤

---

誰だ！ 勝手に月の基盤取り替えたの！  
お陰で月の満ち欠けの周期が変わったじゃないか！  
管理局へ苦情電話をかけた。  
満月がこんなに何度もきたんじゃたまらない。  
うおー。またきたー。

### [#書き出し](#)

「いいんですか奥さん」  
「いいのよ私獣のあの人が好きなの」  
狼男に変わるあの人をうっとり見詰める。

## 幽閉と解放

---

私を閉じ込めてほしい。

そう言ったかと思えば、必要ないでしょう捨て去ってって。

きっと君は自分を持って余しているね。

愛する君。僕が君の素敵な所を教えてあげる。

だから君を残さず全て味あわせてよ。

[#書き出し](#)

溢れる肉汁に閉じ込められた肉汁。

どっちもいい。

肉食男子たる僕は、今日も肉を食らう。

## 紙コップ通信

---

ハローコンニチハ、紙コップから着信です。  
あの電波塔が破壊されて僕らは携帯奪われた。  
そこで進化した糸電話。それを使って僕ら毎日メールする。  
同じ人にしかできないってそれって何か問題ですか。  
僕ら互いがとても好きだしそれに何より、  
今この世界に生きているのは僕と君しかいないもの。

[#書き出し](#)

## 死を願う心

---

君が「死にたい」と言うたびに、僕は安心してしまっただ。

まだ大丈夫。そんなことを口にするうちは大丈夫。

抱きしめると君は安心して、そして動かなくなった。

### [#書き出し](#)

「電池切れか」君は死なない。

壊れることはあっても死ぬことはできないよ。

機械だなんて気づかなくていい。ずっと僕の側にいて。

## ガチャポン

---

ガチャポンのように金さえ入れれば出てくるけど、何が出るかは選べない。

世界ってそんなもんだ。

そう言って君は酔い潰れた。

何度目の愚痴かな。

世界とか言って、どうせ恋愛事でしょう。

お金で買える愛なんて必ずいつか終わるのに。

私が隣にいること、いつになったら気づくのかしら。

[#書き出し](#)

## 願い事

---

願い事、賽銭次第。

狛犬に張り紙をさせた。詰まらぬ毎日にユーモアを。

お気軽な気持ちで始めたというのに何だこの大金は。

成程、金になびく神社と思われたか。

ガッカリしていると賽銭箱に子供が一人。

まさか捨て子か？

「僕がお賽銭になります！」

さてどういうことか。

物語の予感に降臨する。

[#書き出し](#)

## 臨時処方

---

重病ですね。処方箋として僕を出しておきます。

恋がしたいと悩む彼女に僕なりの直球。

そしたら彼女、それってどんな効果なのって。

君の笑顔が増えますと答えると、副作用があるんでしょって。

恋する乙女は複雑だ。

それはね...

[#書き出し](#)

この人私が遠まわしにお断りしてる事、いつ気づくのかしら。

## スカートの世界

---

制服のスカートの裾が広がったその範囲は僕だけのスペース。

くるくる回って広がる世界。何人たりとも近寄らせない。

「おい見えんぞ」

先輩だってこの先は。

睨みつけてもお構いなし。ピタリまんまと寄り添う先輩。

背中あったかい。

ねえ、国境を越えてきたからには、覚悟はできているわよね？

[#書き出し](#)

## 赤

---

紅葉、彼岸花、赤とんぼ。

あちらこちらに散らばる赤に安堵する。

これなら目立たないわ。

あの人に押し付け乱れた唇も、思い出すだけで染まる頬も。

独り占めしたかった。

だから貴方の心を刺したの。

零れた赤に染まったこの衣すら、夕陽は全て隠してくれる。

ただ影が、私の影だけが黒くて。

[#書き出し](#)

# 鬼

---

君が殺人鬼なら僕は殺鬼人だ。

君は人を殺す鬼、僕は鬼を殺す人。

出会ったならば殺りあう他はないだろう。

動物を連れた男がやってきてそんな事を言う。

確かに昔は人を殺した。けれども今は。

返す言葉は無視された。

奴は残虐だった。

滅ぼされた鬼ヶ島で俺は一人、仲間を集めて復讐の時を待つ。

[#書き出し](#)

## 本

---

世界中の本を読み切って、途方に暮れた。  
ねえ私って誰かしら。本の世界のお姫様。  
解っているのはそれだけ、なのに。  
どの王子にも私の心は動かない。  
恋心まで失ったの？落胆していると声がした。

### [#書き出し](#)

「君は僕の物語のお姫様だ」  
まだ執筆中のね。  
手を取る彼にお辞儀する。  
さあ物語を紡ぎましょ。

二階図書室、統計の棚、上から三段目、奥から五冊目の本の、879頁。

そこに未来の統計を収めております。

未来の何の統計か？

それは全てでございます。

百年にも届かぬ近き未来のことですからもしや、あなた様の未来の一端も垣間見えるやもしれません。

[#書き出し](#)

どれどれ。

地球総人口0名。0名？

## アリス

---

“シロウサギ”を追い掛けないアリスなんて、要らないんだ。

あらあら強気ねウサギさん。

ならサヨナラで結構よ。貴方の営業努力のなさを私のせいにしないでね。

私はアリス。そう物語を始める者よ。

### [#書き出し](#)

「これをどうぞ」「あら美味しい」

ケーキをいただくと私は逃げるアルマジロを追いかける。

## 最大瞬間風速

---

この最大瞬間風速は君の所為だ。

ついさっきまで僕のこと、バカにして笑ったその唇で「好き」だなんて言うからさ。

僕の心に巻き起こる嵐が何かを吹き飛ばす。

そんな気紛れ言う唇は気紛れで封じてしまおう。

君の手を引き寄せ奪う唇。

君の吹き飛ばした理性はもうしばらく帰ってきそうにない。

[#書き出し](#)

## 全治3ヶ月

---

貴方の抉られた心は全治3ヵ月ですよ。傷も残らず治りますので安心して下さい。  
私はその言葉に絶望する。彼のつけた傷ならいっそ、治らなければいい。

### [#書き出し](#)

ところで原因は？担当医が尋ねる。

貴方のそういう鈍感な態度ですなどと言えるワケもなく、  
3ヶ月で貴方をどう落とそうかとひたすら企む。

## 作られた世界で

---

星空すらも作り物のこの世界で、少女は決められた予定をなぞる。

死ぬまで決まった未来はまるで過去のよう。退屈で壊れてしまわぬように。

少女は笑う（可愛らしく）。少女は考える（思慮深く）。

140字のこの楽園で、文字と文字との隙間を文字以外の何かで飾り、

記憶に鮮やかな色をつける。

[#書き出し](#)

## 溶けない飴玉

---

溶けない飴玉をもらった。

ずっと舐め続けていたら飴の味が解らなくなった。

甘さを感じないのは飴に慣れてしまったからか、それとも味だけ先に消えてしまったからか。

時々君が飴を僕ごと味わって、大丈夫って笑うから、甘さを信じて僕も笑う。

君のくれた恋の飴、僕は今も甘さを見失ったまま。

[#書き出し](#)

## ビー玉ひとつ

---

君が溶けた。後にはビー玉ひとつ。

### [#書き出し](#)

一日目。祭囃しの聴こえる夕べ、碧の帯の君を見初めた。

二日目。昨日の君を忘れられず彷徨う縁日。ほら君を捕まえた。

三日目。約束通り会いに行く。

神社の裏で口付けすると弾ける様に笑って、君が溶けた。後にはビー玉ひとつ。

口付けはラムネの味がした。

## いとでんわ

---

電波は何処までも届くけど、糸電話くらいの距離で君と居られたら。  
だから僕ら糸電話。声は走る。糸を伝って、空を抜けて、星を越えて。  
僕らいつでも繋がってるよ。電波より強い赤い糸。

もしもし。

「電波が届かない所にいるか電源が入っていないためかかりません」

ねえ君これはどういう意味？

[#書き出し](#)

## 氷の杭

---

氷の杭で心臓を貫くと君の恋心は泣きだした。  
ぽっかり開いた傷口から流れる血を見ていられなかった。  
だから杭で止血をしたのに君は泣きだしそして怒った。  
治したくない傷なのよ。彼との最後の絆なの。

### [#書き出し](#)

恋心など早く冷えてしまうといい。  
そして杭が解けた頃、正しい恋愛を僕とすればいい。

## うさぎりんご

---

彼は器用にリンゴをうさぎさんにした。

ぴょんと枕元に飛び降りたうさぎさんは彼女を見舞う。

看護師さんもどうぞ。

彼はうさぎさんリンゴを私にもくれた。

こちらのうさぎは動かない。

魔法使いか何かですか？

いえいえそれならとっくに彼女を治してますよ。

リンゴを齧ると、蜜のように甘かった。

[#書き出し](#)

## 醜い心

---

心が醜くなるたび、言葉は綺麗になった。  
君にはいつも嘘ばかり。輝く言葉で未来を飾る。  
本当の事は言えなかった。君じゃなくて僕のため。  
けれど未来を拒絶したってその日は難なくやって来た。  
最期の日、それでも嘘をやめない僕に君は笑う。  
貴方の綺麗な心、忘れないわ。

[@akizakura4](#) [#一文](#)

## カレー寝ろ

---

カレーを一晩寝かせたと思ったら起きてた。

眠れぬ理由を問い詰めるとポツリポツリと語り始める。

好きな子がいるんだ。ルー時代スーパーで見つけて一目惚れだった。

お洒落に赤い七つの表情が可愛いあの子。

[#書き出し](#)

美味しくなれば会えるよ。

僕の言葉に、いつになく甘いカレーは素直に眠りについた。

## サミシイ

---

雨が降ると、【サミシイ】がよく育つ。

喜び舞うサミシイはもう掌にはのらない。

一緒にやってきた【ウレシイ】は、まだまだ掌サイズなのにね。

晴れた日にしか逢えない私の恋人。

解っているけれど溜息が出る。

そう言えば、サミシイウレシイと一緒にやってきた【アイ】はどこへ行ったんだろう。

[#書き出し](#)

ドン！

---

愛しています、ぼくと串刺しになってください。

今更だわ。勇気を出して告白した夏、匂じゃないって振ったじゃない。

それに、胡瓜と貴方の愛の添え物にすらされたのよ。貴方なんか、

ドン！黙れよ。

強引に壁へと押し付けられた。

俺様と串刺しになれ。

はい///

こうしてネギマの出来上がり。

[#書き出し](#)

## 赤い糸

---

ちぎって結び直せば誰とでも繋がる赤い糸。

恋愛離れ対策に縁結びの天使が開発した最終兵器への交換が進んでいた。

### #書き出し

「糸取り替えて結び直して下さい」

「はいはい...あーお客さんは無理です」

「くっ相手が二次元だからか！」

「それもありますが、お客さん元々赤い糸をお持ちじゃないですから」

## 一生のお願い

---

その一生のお願いは何回目だい？

呆れ顔の彼はけれど願い通りにキスをくれた。

そんなこと言わなくたって叶えるのに。

そう呟いて読みかけの本に目を落とす。

解ってないわ。これは勇気を出すためのおまじない。

次はどんな一生のお願いをしようかしら。

乙女には、叶えたい願いがたくさんあるの。

[#書き出し](#)

その一生のお願いは何回目だい？

そうね何回目かしら。

彼のキスに目を閉じた。

恋がまた一つ進んだ達成感。そう次は。

何を考えているの？

そんな恥ずかしいこと言えないわ。

妄想が暴走する。待ちきれない。

私はメモリーチップを取り出すと別の私にいった。

一生を託し亡骸の山に横たわる私達。

[#書き出し](#)

## バッドエンド

---

物語が泣き出した。

どうしてぼくはバッドエンドなんですか。

よよと泣く。

それを見ていたハッピーエンド。

このポジションを勝ち取るために私がどんだけ努力したか。まずあんた、その作者のどこやめなさい。

ええっ！ハッピーエンド作家の少ないこのご時世に？

もう、だからあんたはバッドなの！

[#書き出し](#)

## 思い出の寿命

---

そろそろ思い出の寿命だ。

僕の掌、ぐったりとした思い出。

あの時からずっと一緒にいたね。

泣いてる僕をひたすら慰め、励ましてくれた。

だから僕はこんなに早く元気になって、だから君は、こんなに早く寿命が尽きる。

ありがとう。

思い出は、頬にキスすると嬉しそうに一声鳴いて消えた。

[#書き出し](#)

## 扉

---

世界の終わり、二人はドアを挟んで背中合わせ。

透明なドアはいとも簡単に開くのに、開けることなくそれぞれの世界。

君は言う。希望なんか無かったわ。

僕は言う。無かったね。

君は言う。オシマイよ。

僕は言う。まさか。

振り返る。

今度は二人で探してみない？

扉を開けた。温かい君の指先。

[#書き出し](#)

## 文芸少女

---

文学少女の秘密は行間に潜む。  
南の空に煌めく星（貴方のこと）。  
目が離せない（愛しています）。  
それが星であると忘れるほどに見つめて（とてもとても）。

### [#書き出し](#)

愛しい彼は、この秘密に気づくかしら。  
気づかなくてもいいのだけれど。  
少女は本を差し出した。  
読んでみて。なかなか素敵な本なのよ。

## 携帯電話

---

私が今一番愛しているのは、携帯電話かもしれない。  
貴方はマメに電話をくれる。  
おはようおやすみ愛してる。メールだってとても優しい。  
なのに。  
会うと貴方は何も言わない。手も繋がらない。  
近い程遠い私達。

### #書き出し

君の一番は僕の一番。携帯電話を僕は愛でる。  
愛している。  
答えても答えなくとも。

(\*ΦωΦ)

---

最近、物陰に猫の尻尾を見る。

追うと逃げるし、妻は何それと笑うが確かに猫だ。

黒い尻尾が揺れる。

三ヶ月続くと猫は消えた。僕は寂しくなる。

「猫、飼わない？」

「前に私が言い出した時は嫌がったのに、どうしたの？」

[#書き出し](#)

黒い尻尾を妻の部屋で見つけたのは、子猫をお招きした3日後の話し。

## 懐かしい手紙

---

懐かしい手紙の封をあけた。

傷つくのが怖くて読まずにいた君からの別れの手紙。

あまりにも予想通りのその内容に笑ってしまう。

そこには君が私を嫌いな理由が沢山並んでいた。

[#書き出し](#)

楽しそうだね。笑い声に振り向く彼。

君が私を嫌った理由をそのまま好きの理由にしてしまえる彼と、明日結婚する。

## 神様の言うとおりに

---

どれにしようかな天の神様の言うとおりに。

そう言うから選んでやったのにどういうつもり？

昔は素直でいい子だった。

なのに最近のあんたときたら。

もしかして...悪い子になりすぎて私の声が聞こえなくなった？

[#書き出し](#)

神様の声は聞こえてた。

だからこっちを選んだの。

知ってるの。私の神様は勘が悪い。

## しっぽ

---

尻尾の生えたお嫁さんがやってきた。

僕には尻尾がない。尻尾には感情が表れるから大助かりだ。

正直な尻尾が揺れる。

### [#書き出し](#)

尻尾のない旦那さんへ嫁いだ。

私には尻尾がある。尻尾には感情が表れると思ってくれているから大助かりだ。

嘘つきな尻尾が揺れる。

嘘をつかない女などいないわ。

## いちょう

---

今年はいちょうはまだ染まる気がないらしい。

「まだやれる」のだそう。

青い季節を謳歌し老いず「最後まで現役（緑）で散りたい」らしい。

結構なことだが紅葉はどうなる銀杏は。

けれどいちょうは知らんぷり。

「若いもんが情けないのがいかん」

と荒ぶるけれど、ただ楽しみたいだけだよね。

[#書き出し](#)

## かぼちゃの馬車

---

かぼちゃの馬車に乗りきれないくらいの娘達が城へ向かう。  
全ての娘が王子と踊り、0時前。それぞれ靴を脱ぎ捨てた。  
靴の山の中、王子は愛しい娘の靴を探しだす。

### [#書き出し](#)

「貴方だ」選ばれたシンデレラを他の娘は祝福した。  
さあ次は白雪姫よ。  
王子様って奪い合うもの。娘達は次の本へと駆けだした。

## 幸せなロボット

---

しあわせなロボットがいた。  
しあわせであることを入念にプログラムされていた。  
過酷な労働、暴力、裏切り。  
それらも全て、ロボットの中ではしあわせだった。  
有難うございますご主人様。私はとてもしあわせです。

### [#書き出し](#)

先に耐えられなくなったのは人間だった。  
しあわせなロボットはもういない。

## 夢から醒めたら

---

夢から醒めたらとても生きてはいけないの。  
あの恐ろしい呪いから百年。世界はどれだけ変わったか。  
家族や友達はもういない。密かに恋したあの人も。  
茨に守られ私は眠る。永遠に眠り続けたい。

### [#書き出し](#)

口吻で私を夢から連れ出す王子様。  
貴方を恨む事は出来ても愛する事はできない、できないのよ。

## 魔女の帽子

---

落ちていたのは魔女の帽子だった。

落とし主らしい魔女っ娘に差し出すと感謝され、「Trick or Treat」と微笑まれた。

お菓子持ってない。

### [#書き出し](#)

危ない危ない。魔女バレするところだった。

仮装のフリとか私天才。

ところで悪戯として蛙に姿変えといたけど、この程度の魔法は平気よね？

## 花の命

---

短い花の命をあなたは愛でた。

けれど私は知ってる。

花が咲く前も後も、あなたはその花を愛し続けていることを。

開花は過程に過ぎないでしょう。

そんな風に言う人だから、私はあなたを選んだの。

恋の命は短いわ。

最も綺麗な恋の花しか愛せぬ人と、永遠の愛を探しに行くなどできないでしょう。

[#書き出し](#)

## 右の心臓

---

右の心臓が痛い。だがそれがいい。

僕らキカイの僕らにとって、心臓はお洒落なアクセサリー。

だから、だから見た目が全て。

僕らはそこに、アイデンティティーの全てをつぎ込む。

右が痛い。だがそれがいい。

痛心臓に描かれた少女に僕の心臓は止まりそうだ。

なーんて、元々動いてないけどね。

[#書き出し](#)

## フラグ

---

なんと死ななくてもいいらしい。

「俺に任せて先行け」とか「殺人犯と一緒にいられるか」とか

「この戦いが終わったら結婚する」とか言ったのに。

俺は勝った。

[#書き出し](#)

あいつ可哀想でさ。一人芝居じゃフラグたたねーの知らねんだ。

ぼっちな現実に絶望されても面倒だから勝ったことにさせとこうな。

## 美しすぎて

---

愛を伝えるのが私の仕事。

桃色の便箋に綴られた愛の言葉、それが私。

溢れるほどの恋心と共に封筒に包まれ下駄箱に潜む。

終業のベル。やってきた彼女は、キョロキョロあたりを見回し封筒を開けた。

「何これ下手すぎて読めない悪戯とか勘弁」

ポイ。

伝わらない言葉。何もかも、私が美しすぎて・・・

[#締め](#)

## 閉ざされた場所

---

閉ざされたこの場所で考えた。

チェーンをかけたこの部屋は密室。

別室では親族達が老いた私の結婚と遺産をネタに盛り上がる。

窓の外にはなんと雪まで降ってきた。

ミステリファンなら千載一遇のチャンス。

もしも私が殺される様に死んだなら。もしも。

[#書き出し](#)

「これは自殺だな」ああ再挑戦したい。

## 嬉しいとばっちり

---

嬉しいとばっちりがあっため合っていた。

吹雪の山小屋。あるのは一枚の毛布だけ。

濡れたウェアを脱ぎ殆ど裸の様な格好で共に毛布に包まる。

ごめんね、と嬉しいは泣きだした。

元々、嬉しいが道を間違えたのがこの遭難の始まりだった。

嬉しいとばっちりだよ。

ばっちは嬉しいを抱きしめる。

[#書き出し](#)

ましろ

---

貰った本を早速開いてみると、どこもかしこも真っ白であった。

行間を読んでと君は言うけど行はどこだ。

せっかちね。

君は最初の頁に、「私は君のことが」と書く。

そして最後の頁には「。」。

どうということ？

問えば、だから行間読みなさいよって、頬が赤い。

早く、この本の感想を君と話したい。

[#書き出し](#)

## 薬指

---

好きだから喧嘩もするのだろうと思ってた。

問題を二人で解いていくことが二人の恋の成長なのだと思ってた。

けれども君は違ったみたい。君が好きなのは僕ではなくて、どうやら僕との甘い関係。

呼び出されたカフェ。

俯く君。

それが君の答えか。薬指には何も残っていなかった。

[@ps\\_plum](#) #締め

## お菓子はいらない

---

君のお菓子は要らない。

Trick or Treatも言われる前に差し出したお菓子を君は拒否した。

ねえそれって、「お菓子貰ったら悪戯して貰えなくなっちゃうじゃない」ってこと？

駄目だよ。君にはまだ早い。

[#書き出し](#)

あのお兄ちゃん誰？

知らない人にお菓子貰っちゃ駄目ってママが言ってた。

## 歌姫

---

なほは『歌うたい』です。髪は漆黒。瞳は夕焼け色。暢気な性格で、本を使用します。仲がいいのは『暦織り』、悪いのは『絵師』。追加要素は『美声』です。 [#空想職業](#)  
<http://shindanmaker.com/267925>

歌姫の絵師嫌いは有名だった。  
美しい彼女なのに、何しろ一枚の肖像画も残されてはいない。  
完成した絵を気に入らないと全て彼女が破いたのだ。一枚を除いては。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ①

漆黒の髪、夕焼け色の瞳。そればかりね。  
歌姫はため息をつく。  
麗しの歌姫。是非私に貴方の絵を。  
名乗り出る絵師後を絶たない。  
歌姫は絵師を拒まなかった。  
けれど、完成した絵を気に入ることはなく、ひたすらに破き続けた。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ②

これが私なんてちゃんちゃらおかしいわ。  
あなた方の目は節穴ね。  
もう、絵を書いて貰うことはやめようと思った頃に彼は現れた。  
「貴方の美しさを収めさせて下さい」  
絵師をもはや信用できなくなっていた歌姫は心の中でそっと決めた。  
これで、最後にしよう。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ③

絵師と向き合う日々。彼は他の絵師とは違った。  
「歌って下さい」誰もしなかった要求。  
動いてもいい、笑っても泣いてもいい。  
ただ、歌って欲しいと。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ④

絵師の存在を忘れそうな程、自由な時間を過ごしていた。  
絵のことなどすっかりと忘れていた。その頃。  
「できました」絵師が彼女に、声をかけた。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑤

四角いキャンバスの中には当然彼女が微笑んで、  
漆黒の髪、夕焼け色の瞳。  
けれどもそこには、彼女などいなかった。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑥

「これは」驚く歌姫に絵師は言う。  
「タイトルは『きこえる』です」  
そこに描かれていたのは、夕焼けから漆黒に移り変わっていく、多分、空。そして、多分。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑦

歌が、きこえる。 [#空想話](#) [#歌姫](#) ⑧

「貴方の美しさを描きました」  
「美しさ？」  
「貴方の本質は歌ですから」

[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑨

なんなのこの絵師は。  
ちゃんちゃら、ちゃんちゃら。  
「絵師の中にも話のわかる奴がいるのね」  
歌姫は、その絵を壁にかけた。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑩

「それにしても」  
壁にかかった絵からきこえる歌に耳を傾ける。  
「私よりうまいんじゃない？この歌！」  
やっぱり絵師なんか大嫌い。  
歌姫は、きこえる歌にあわせて歌う。

[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑪

美しいハーモニー。  
歌が、きこえる。  
[#空想話](#) [#歌姫](#) ⑫完

## 踊り子

---

なほは『踊り子』です。髪は碧色。瞳は紫紺。やんちゃな性格で、鈴を使用します。仲がいいのは『染め物屋』、悪いのは『読心師』。追加要素は『背が低い』です。

シャランラ。鈴がなる。  
僕は踊り子だ。踊り娘じゃない。  
まだ成人してない男のダンサー。  
今日も酒場の片隅で踊る。  
お姉さま方の心を奪うのが僕のお仕事。  
見る者の心を、違う世界へ連れていく。  
時々、僕の世界に連れて行っちゃうこともあるけどね。  
#空想話 #踊 ①

染め物屋と出会ったのも酒場だ。  
知らない間に僕は彼女の心を奪ったらしい。  
年下の僕を子供扱いせず心打ち明けてくれた。  
けれど僕は恋などまだよく解らなくて、未だ返事をしていない。  
僕と彼女はつかず離れず。  
僕は彼女の染める布が、彼女は僕が。  
お互いに必要なのだ。  
[#空想話](#) [#踊](#) ②

恋ってなんだろう。  
時々考える。  
必要っていうのだけじゃ多分恋とは違うよね。  
染め物屋とはなんとなく、恋じゃない気がしているけれど。  
恋ってなんだろう。  
いつか僕にもできるだろうか。  
シャランラ。踊る。シャランラ。  
瞳と同じ紫紺の薄衣越し、染め物屋が見えた。  
[#空想話](#) [#踊](#) ③

厄介だ。染め物屋の隣に読心師がいる。  
僕と目が合うと、あいつはニヤリと笑った。  
読んだな。

読心師は時々現れる。

染め物屋に連れられて、時々現れては、ああやって人の心を読むのだ。

僕はあいつが苦手だった。

[#空想話](#) [#踊](#) ④

昔言われたことがある。

「踊っている時って踊りのことだけ考えてるんじゃないんだな」

って。

恥ずかしさで一気に顔が赤くなった。

その日の僕は、恋について考えていたのだ。

あれはそう、染め物屋に告白された日のこと。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑤

「素敵だったわー」

染め物屋が僕に抱きつく。

読心師は何も言わずクスリと笑う。

「そうそう、新しい布できあがったわ」

「有難う」

「今度の曲は、恋の歌と聞いたのだが...」

珍しく読心師が口を開く。

「子供のお前に出来るのか？」

相変わらず嫌な女だ。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑥

恋の曲に合うという条件で依頼した布だ。

「これが恋」

布は、白。真っ白な布に白い糸で刺繍が施されていた。

「いい白でしょ？あなたの恋をイメージしたの」

「僕の？」

「何色とも合うし、何色にでも染まる色よ。ま、できれば私の色とがいいんだけど...」

成程。染め物屋らしい解釈だ。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑦

「白なんて勿体ない買いかぶり過ぎだ」

隣で呟く読心師を、染め物屋は小突く。

「またそんなこと言う」

「やはり透明ではないか」

「白よ」

「透明はゼロと似ているだから」

僕の話は僕抜きでして盛り上がり、お姉さま二人は帰っていった。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑧

透明と白。

読心師の言う通り、僕の恋は多分透明だ。

何も無い。

ゼロに何をかけてもゼロのように、

僕にどんな心をかけても僕は僕のままだろうし、

何も生まれるはずがない。

僕の色が必要だ。

読心師の言葉がチクチクと胸に痛い。

僕のこと、解ったようなふりしやがって。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑨

恋の曲ではじめて踊る日。

最前列には、染め物屋と読心師。

あの顔は無理やり連れてこられたってところだろう。

さあ、連れてってやる。

僕は、舞台にあがる。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑩

シャランラ。鈴がなる。

染め物屋の驚いた顔が見えた。

染め物屋の白い布を小道具として踊る。

本当はそういうつもりだった。

僕は何も持たずに舞台上で踊る。

まるで、透明の布を扱うかのように振る舞って。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑪

僕には何もない。

それっていけないことだろうか。

それって恥ずべきことだろうか。

いや違う。恋に準備は要らないはずだ。

透明なままでもいいはずだ。

僕の色を変える何か、それこそ恋じゃなからうか。

今はこの透明な心を、ただ誇らしく磨けばいい。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑫

「驚いたわ！」

染め物屋は少し残念そうだったけれど、褒めてくれた。

いい踊りだったって。

それよりも僕は。

「あんたは、あんたはどう思った」

読心師は面倒くさそうに、

「お前らしかったよ」

そう言って僕を撫でた。

また子供扱いだ。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑬

僕は今日も、踊る。

染め物屋に遅ればせながらと告白の返事をしたら彼女、少しだけ泣いて、そして笑った。

けれど今でも仕事は彼女に頼んでいるし、酒場に僕を見に来てくれる。

そして読心師も。

僕は前より、あいつが苦手じゃなくなった。

[#空想話](#) [#踊](#) ⑭

どうやら心が全て読めるわけじゃないってことが解ったしね。

相変わらず子供扱いされるけれど、いいかいつかおぼえてろ。

踊るたびに、大人になる。

シャランラ。鈴がなる。

[#空想話](#) [#踊](#) 完



#妖町 #雨師

---

火車の背は焦げ臭い。

人を苦しめるためには強い炎が必要なのだと言うけれど、私は知ってる。

弱火でゆるりと焼かれた方が辛いだよ。

火車の優しさは私一人のものでいい。人にも誰にも渡しやしない。

雨師たる私は火車の周りに雨を呼ぶ。

少しは炎が弱まるように。

あの人の背が焦げぬように。

[#妖町](#) [#雨師](#)

君はいいところのお嬢様だったから、  
こういうところにくるのはあの日はじめてだったのかな。  
見るもの全てが珍しいといった素振りの君は、  
僕をみると嬉しそうに笑った。  
見慣れたものを見つけて安心したのかもしれないし、  
グラスに入ってお洒落してるのがおかしかったのかもしれない。  
その日、一番沢山僕を食べたのは君だった。

それから君は、度々店に来てくれたよね。  
友達を連れてきてくれたり、男と来たり。  
お嬢様の君だからこういう所にくるのは初めてだったのかもね。  
見るもの全てが珍しいといった素振り。けれど僕を見ると嬉しそうに笑った。  
数少ない見慣れた物に嬉しくなったのかもしれない。  
その日、一番沢山僕を食べたのは君だった。

それから君は、何度も店に来てくれた。  
友達と来たり男と来たり。  
心配になっちゃうような事も沢山あったね。  
この店で君の涙を見たのって、一度や二度じゃない。  
だけど。  
ある日、君は彼と出会う。  
ポッキーゲームなんかしちゃってまた遊ばれるぞって思ったけれど分らないもんだね。  
彼に辿り着くために必要な手順だったと思えば、流した涙も悪くないとは思わない？

今日このバーで、君達の結婚式の二次会が行われている。  
今迄言われ続けてきた事を、今日は僕から叫ぼう。

あまーい！

つつかつかと近づく白いドレス。君は僕をつまむと、  
「そうね甘さじゃ負けないわ」

・・・え、まさかね？

## ハロウィン企画

---

「おかしちょうだい」

ウサギと私は家々を回る。

たっぷりのお菓子。けれど。

「悪戯するゾ」どんな素敵なお菓子を貰っても悪戯するウサギ。

ルール違反よと窘めると、「お礼しないなどトンデモない」。

誰かこのウサギノランタン、プログラムし直してあげて。

[@yuzulih30](#) #っおかし

(おかしをもらいに行こうと、ジャックオランタンの被り物にしてみたの。

#おかしちょうだいって言おうと思ったら、相手もジャックオランタンだった。

でも、ウサギ型のジャックオランタンって変わってるね。 @naholograph)

「どうぞ召し上がれ」

満月ってどんな味かな、と言ったら彼女がホットケーキを焼いてくれた。

可愛い発想が微笑ましい。

甘い甘いホットケーキを噛りながら僕は窓の外の満月を眺め...おや。

確かに満月だったはずの月が欠けている。

目の前のホットケーキと同じように。

[@lion07dog](#) #っおかし

(夜空にぽっかり浮かぶ、まんまるお月様。

.....かじったらどんな味がするかしら...おっと涎が

[@naholograph](#) #おかしちょうだい \ (^p^)/ )

これはこれはハロウィンの質問。

ぴぴ。ハロウィンキーワード、カボチャお菓子悪戯お化け。

理解。

[@873k](#) #っおかし

「カボチャはお菓子に入りませんのでお化けで悪戯します」

意味が解らない。最新式なんて嘘か。

ウサギが壁に映しだしたお化けの映像は現実となり襲いかかる。

やっぱり最新式...バタ

[#おかしちょうだい @naholograph](#)

風の噂で聞いたんだけど、最新式のウサギロボは、ハロウィンを理解するらしいね。  
ちょっと試してみよう、トリック・オア・トリート！

「どんな事件ですか」「おじちゃんお菓子は？」

「お菓子？」「くれないの？」

「何故だ」「じゃ、しょーがねーな」

俺は子供達に囲まれた。

[@ryuka511 #っおかし](#)

「...これが事件の概要だ」

密室の謎に挑む子供探偵団に拉致された俺は、  
大人の手がどうしても必要な部分を手伝わされている。

街から聞こえた「トリック」の声に探偵はハッと顔を上げる。

「trick or Treat!」.....何だって？「策謀か喜びか」だと!? 事件の予感!

[@naholograph #おかしちょうだい](#)

例えばそれを抉りだしたらぽっかり穴があくでしょう。

殺人現場の人型みたいに輪郭だけは残るでしょう。

忘れないのはどうですか。その特別な事の全てを特別な事にしない努力をしませんか。  
月並みですね。

けれど心に効くトリックなんて、そうそうあるもんじゃありませんから。

[@ce1039 #っおかし](#)

すべてを忘れたと思ったことは誰にでもあるでしょ？

このやり場のない想いを心から抉り出したいと思ったことは誰にでもあるでしょ？

君の涙を止められなかった時。君を失ってしまった時。

ねえ探偵さんあなたなら知ってますか？この難問の解決の仕方を。

[@naholograph #おかしちょうだい](#)

「悪戯はお菓子に仕掛けて欲しいな」

僕の依頼で作った不味いお菓子ならば、残しても角が立たないだろう。

[@mimimdr #っおかし](#)

当日、悪戯なクッキーが並ぶ。

料理下手の君が不味さを自覚して作ったクッキーは意外にも美味しかった。

「で、こっちは仕掛けなしの口直しよ」

僕は死を覚悟する。

彼は思案していた。彼女はハロウィンをずっと楽しみにしていた。

手作り菓子などを用意しているに違いない。

だが一つ問題がある。

彼女は、尋常でない料理ベタなのだ。

さあ、どうする？！

[@naholograph](#) [#おかしちょうだい](#)

お菓子。お菓子ですか。

おや。おやおや。

こんな日に誰かと思ったら私ですか。

私は私を招き入れる。自分なのだから問題ない。

遺伝子組み換え人参のケーキを振る舞う。

お好きでしょう。だって私は好きだから。

[@AshleyRockford](#) [#っおかし](#)

おや食べない？お菓子食べなきゃ悪戯ですよ？

貴女の仮装をして、行こうと思う。

チャイムを鳴らしてドアが開いたら、きっと貴女は驚くだろうな。

自分と同じウサギがいるんだから。

その顔を見たいがために、ひと月前から計画していたんだ。

最初の言葉はもちろん「[#おかしちょうだい](#)」貰えないならキスでもしょうか。

[@naholograph](#)

先祖代々怖いかぼちゃの家系だった。

だから私も志した。けれど私には才能がない。

本当はただのおいしいかぼちゃになりたかった。

平凡な家庭を築き、子かぼちゃを沢山作って幸せに暮らしたかった。

なのに。

[@tensyou99](#) [#っおかし](#)

名門怖いかぼちゃ家系の私は人を脅かす。心では泣きながら。

[@naholograph](#) かぼちゃが浮いていた。

素敵なかぼちゃだったので、インタビューしてみた

「どうしてそんなに素敵なんですか？」 「...素敵ですか？素敵ですか？」

「す...素敵ですよ？」 「うわぁー！また怖がられなかったー！単位、単位がー！」

おぼけの事情も複雑らしい

[#おかしちょうだい](#)

名探偵モードに切り替えます。ぴ。

「密室殺人の犯人にされそうでお困りと」 「そうです」 「わかりました解決します

」 [@shirayu10109388](#) [#っおかし](#)

「お陰で密室の謎はとけましたね」 「チョチョイのちょいです」 「まだ私疑われてますけど」

「普通の殺人事件の犯人でもご不満ですか」

[@naholograph](#) おやこんなところにウサギさんが。

そうだ、ちょっと頼みを聞いてくれないかな？

実はとある事件に巻きこまれて密室殺人の犯人にされそうなんだ。

もちろん僕はやってない。僕の無実を証明してくれる探偵を知らない？

[#おかしちょうだい](#)